

平成 25 年度 東洋大学 事業報告書



学校法人 東洋大学

■はじめに 1

1. 法人の概要

(1) 建学の理念 2
(2) 設置する学校・学部・学科等 2
(3) 学校法人の沿革 3
(4) 学校・学部・学科等の学生数等 4
(5) 役員等 7
(6) 教職員数 7
(7) キャンパス等 8
(8) 組織図 9
(9) 学生生徒等納付金額一覧 10

2. 事業の概要

(1) ハイライト 11
(2) 東洋大学 13
(3) 東洋大学附属姫路高等学校 21
(4) 東洋大学附属牛久高等学校 22
(5) 京北高等学校 23
(6) 京北中学校 24
(7) 京北学園白山高等学校 25
(8) 京北幼稚園 26
(9) 学校法人東洋大学 27

3. 財務の概要

(1) 決算の概要 30
(2) 経年比較 32
(3) 主な財務比率比較 33
(4) その他 34

4. データ集

(1) 入学試験の概要 36
(2) 就職の概要 38
(3) 外部資金、助成金等の概要 39
(4) 国際交流の概要 40
(5) 図書の概要 41

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 26 年 3 月 31 日

学校法人 東洋大学
平成 25 年度
東洋大学 事業報告書

平成 26 年 5 月 31 日発行
発行 学校法人 東洋大学

表紙写真 撮影：三島 勲

(お問い合わせ先)
東洋大学総務部総務課
〒112-8606
東京都文京区白山 5-28-20
TEL : 03-3945-7224
FAX : 03-3945-7654
URL : <http://www.toyo.ac.jp/>
E-MAIL : ml-soumu@toyo.jp



学校法人東洋大学
総長 塩川正十郎

実践的哲学を基盤に
知力と徳力、双方に
秀でた人材を育成



学校法人東洋大学
理事長 福川伸次



東洋大学
学長 竹村牧男

本学は、創立者井上円了博士の思想と建学の精神を継承し、平成 24（2012）年に創立 125 周年を迎え、次なる時代への一歩を踏み出しました。

井上円了博士は、「哲学」の学習を通してものごとの本質を見極めることの大切さを説き、この思想は、「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」という東洋大学の建学の精神に象徴され、現在に至るまで継承されております。この建学の精神をもとに、教育理念として「自分の哲学を持つ」「本質に迫って深く考える」「主体的に社会の課題に取り組む」人間を養成し、また、「他者のために自己を磨く」「活動の中で自己を磨く」ことを東洋大学の心としています。これらの東洋大学の心を建学の理念と位置付けて、教職員一同教育研究活動と社会貢献に邁進しております。

平成 25 年度は、哲学に基づく叡智をもって自らの価値観を形成し、理想社会の建設に果敢な行動力を発揮する次世代リーダーの育成を目指す「井上円了哲学塾」を開設し、第 1 期を無事終了することができました。また、学生のキャリア形成の一助となるよう、各界で指導的な活躍をしている方々を招いた特別講演会「未来を拓くトップセミナー」を開催するなど、様々な事業を展開するとともに、社会に貢献する「食」の真のプロフェッショナルを養成する食環境科学部を板倉キャンパスに新設、文学部のインド哲学科と中国哲学文学科を統合再編し、世界を見渡す広い視野と自分自身を深く見つめる眼力を養う東洋思想文化学科を白山キャンパスに開設しました。

初等中等教育諸学校においては、附属姫路高等学校が創立 50 周年を迎え、7 月には記念校舎（本館（第 1 校舎））が竣工し、創立 50 周年記念式典・祝賀会を 9 月 26 日に挙行するとともに、附属姫路高等学校に併設する附属姫路中学校は平成 26 年 4 月開設の準備が整いました。

また、平成 27 年度に開設する運びとなった附属牛久中学校については、設置計画が 10 月 10 日に茨城県知事に承認され、記念校舎の起工式を 12 月 6 日に行い、開設に向けた準備を進めています。白山第 2 キャンパスにおいては校舎新築工事安全祈願祭を 7 月 31 日に行い、平成 27 年度に新校舎に移転して男女共学の附属学校とする東洋大学京北中学高等学校の開設準備を進めています。

法人内の諸学校全体における教育研究環境の整備・充実はもちろん、教育研究内容に即したキャンパス計画にも引き続き積極的に取り組んでおります。幼稚園から大学までの新たな教育体制を構築するため、全学が一丸となった具体的な行動計画の実施に取り組んでまいります。

1. 法人の概要

(1) 建学の理念

建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

東洋大学の教育理念

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

東洋大学の心

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。

(2) 設置する学校・学部・学科等

① 東洋大学

学長 竹村 牧男

[学部] 文学部第1部・第2部、経済学部第1部・第2部、経営学部第1部・第2部、法学部第1部・第2部、社会学部第1部・第2部、理工学部、国際地域学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部、食環境科学部
[大学院] 文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経営学研究科、工学研究科、経済学研究科、国際地域学研究科、生命科学研究科、福祉社会デザイン研究科、学際・融合科学研究科
[専門職大学院] 法務研究科
[通信教育部] 文学部、法学部
明治20(1887)年9月 私立哲学館として創立
昭和24(1949)年4月 新制大学へ移行

② 東洋大学附属姫路高等学校

校長 橋本 俊雄

全日制 普通科
昭和38(1963)年4月 開校

③ 東洋大学附属牛久高等学校

校長 遠藤 隆二

全日制 普通科
昭和39(1964)年4月 開校

④ 京北高等学校

校長 石坂 康倫

全日制 普通科
明治32(1899)年4月 京北尋常中学校として創立
昭和23(1948)年4月 新学制により高等学校へ移行

⑤ 京北中学校

校長 石坂 康倫

明治32(1899)年4月 京北尋常中学校として創立
昭和23(1948)年4月 新学制により新制中学校へ移行

⑥ 京北学園白山高等学校

校長 石坂 康倫

全日制 商業科
明治41(1908)年4月 京北実業学校として創立
昭和23(1948)年4月 新学制により商業高等学校へ移行

⑦ 京北幼稚園

園長 清澤 文彌太

明治38(1905)年5月 開園

1. 法人の概要

(3) 学校法人の沿革



カント



孔子



釈迦



ソクラテス

四 聖

創立者井上円了は、古今東西の哲学者、釈迦、孔子、ソクラテス、カントを祀り「四聖」と定めた。今でも「四聖」は、東洋大学のシンボルとなっている。

- 明治 20 (1887) 年 9 月 井上円了が本郷竜岡町の麟祥院に私立哲学館を創立
- 明治 32 (1899) 年 4 月 私立京北尋常中学校開設
- 明治 36 (1903) 年10月 私立哲学館大学と改称し、専門学校令により大学部・専門部を設置
- 明治 38 (1905) 年 5 月 京北幼稚園開園
- 明治 39 (1906) 年 6 月 私立東洋大学と改称、同年 7 月、財団法人私立東洋大学となる
- 明治 41 (1908) 年 4 月 私立京北実業学校開設
- 大正 9 (1920) 年 1 月 私立京北中学校、私立京北実業学校の「私立」の冠称を廃止
- 3 月 私立東洋大学の「私立」の冠称を廃止
- 昭和 3 (1928) 年 3 月 大学令による東洋大学の設置を認可される
- 昭和 23 (1948) 年 4 月 学制改革により、京北中学校、京北高等学校、京北実業高等学校となる
- 昭和 24 (1949) 年 4 月 学校教育法により新制大学への移行
文学部第 1 部設置 (第 2 部は昭和 27 年)
- 昭和 25 (1950) 年 4 月 経済学部第 1 部 (第 2 部は昭和 32 年)、短期大学部第 2 部設置、京北高等学校・京北実業高等学校を合併し、京北高等学校普通科・商業科となる
- 昭和 26 (1951) 年 3 月 私立学校法により財団法人私立東洋大学から学校法人東洋大学へ組織変更
- 昭和 27 (1952) 年 4 月 大学院文学研究科設置
- 昭和 28 (1953) 年 2 月 京北高等学校普通科・商業科を京北高等学校・京北商業高等学校とする
- 昭和 31 (1956) 年 4 月 法学部第 1・2 部設置
- 昭和 34 (1959) 年 4 月 社会学部第 1・2 部、大学院社会学研究科設置
- 昭和 36 (1961) 年 4 月 川越キャンパス開設、工学部設置
- 昭和 38 (1963) 年 4 月 附属姫路高等学校、附属南部高等学校開設、短期大学部第 1 部設置
- 昭和 39 (1964) 年 4 月 附属牛久高等学校開設、通信教育部、大学院法学研究科設置
- 昭和 40 (1965) 年 4 月 大学院工学研究科設置
- 昭和 41 (1966) 年 1 月 東洋大学短期大学部を東洋大学短期大学に改称
- 4 月 経営学部第 1・2 部設置
- 昭和 47 (1972) 年 4 月 大学院経営学研究科設置
- 昭和 51 (1976) 年 4 月 大学院経済学研究科設置
- 昭和 52 (1977) 年 3 月 附属南部高等学校閉校
- 4 月 朝霞キャンパス開設
- 昭和 62 (1987) 年10月 東洋大学創立 100 周年記念式典を挙げる
- 平成 2 (1990) 年 4 月 井上円了記念学術センターを設置
- 平成 9 (1997) 年 4 月 板倉キャンパス開設、国際地域学部、生命科学部設置
- 平成 13 (2001) 年 4 月 大学院国際地域学研究科、大学院生命科学研究科設置
- 平成 14 (2002) 年 3 月 東洋大学短期大学閉校
- 4 月 京北商業高等学校を京北学園白山高等学校に改称
- 平成 16 (2004) 年 4 月 専門職大学院法務研究科 (法科大学院) 設置
- 平成 17 (2005) 年 4 月 ライフデザイン学部設置
- 11 月 白山第 2 キャンパス開設
- 平成 18 (2006) 年 4 月 大手町サテライト開設、大学院福祉社会デザイン研究科設置
- 平成 19 (2007) 年 4 月 大学院学際・融合科学研究科設置
- 平成 21 (2009) 年 4 月 工学部を再編し、理工学部を設置
- 総合情報学部設置
- 平成 23 (2011) 年 4 月 学校法人京北学園を法人合併 (京北高等学校、京北中学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園が併設校となる)、総合スポーツセンター開設
- 平成 24 (2012) 年11月 東洋大学創立 125 周年記念式典を挙げる
- 平成 25 (2013) 年 4 月 食環境科学部設置

1. 法人の概要

(4) 学校・学部・学科等の学生数等

学部（第1部）

（単位：人）

学部・学科（専攻）	入学定員数	収容定員数	学生数	入学者数	卒業生数	
					9月卒業	3月卒業
文学部	哲学科	100	250	295	118	49
	東洋思想文化学科	100	100	119	119	
	インド哲学学科		150	192		46
	中国哲学文学科		120	152		47
	日本文学文化学科	190	760	941	225	205
	英米文学科	120	480	560	142	113
	英語コミュニケーション学科	100	400	486	119	118
	史学科	110	440	545	130	123
	教育学科	110	440	496	119	112
	（人間発達専攻）	(60)	(240)	(304)	(72)	(65)
	（初等教育専攻）	(50)	(200)	(192)	(47)	(47)
	計	830	3,140	3,786	972	813
経済学部	経済学科	230	920	1,093	279	10
	国際経済学科	175	700	858	200	9
	総合政策学科	170	680	818	200	10
	計	575	2,300	2,769	679	29
経営学部	経営学科	310	1,240	1,527	367	18
	マーケティング学科	150	600	690	174	6
	会計ファイナンス学科	210	840	1,043	252	9
	計	670	2,680	3,260	793	33
法学部	法律学科	250	1,000	1,206	295	
	企業法学科	250	1,000	1,205	295	
	計	500	2,000	2,411	590	
社会学部	社会学科	110	440	520	130	135
	社会文化システム学科	110	440	507	130	111
	メディアコミュニケーション学科	110	440	536	128	129
	社会心理学科	110	440	528	129	131
	社会福祉学科	110	440	515	130	113
	計	550	2,200	2,606	647	619
理工学部	機械工学科	150	600	714	170	16
	生体医工学科	100	400	487	117	2
	電気電子情報工学科	110	440	544	118	11
	応用化学科	120	480	582	141	28
	都市環境デザイン学科	100	340	429	119	7
	建築学科	140	560	690	182	14
	計	720	2,820	3,446	847	78
	（工学部）	情報工学科			16	
コンピュータシオナル工学科				10		4
機能ロボティクス学科				11		3
計				37		14
国際地域学部	国際地域学科	290	1,160	1,235	329	8
	（国際地域専攻）	(180)	(720)	(837)	(218)	
	（地域総合専攻）	(110)	(440)	(398)	(111)	
	国際観光学科	200	800	977	246	2
	計	490	1,960	2,212	575	10
生命科学部	生命科学科	100	400	475	118	4
	応用生物科学科	100	400	460	117	4
	食環境科学科		300	360		3
	計	200	1,100	1,295	235	11
ライフデザイン学部	生活支援学科	200	800	874	218	4
	（生活支援学専攻）	(100)	(400)	(481)	(118)	
	（子ども支援学専攻）	(100)	(400)	(393)	(100)	
	健康スポーツ学科	150	600	722	176	2
	人間環境デザイン学科	150	600	705	178	3
	計	500	2,000	2,301	572	9
総合情報学部	総合情報学科	260	1,040	1,132	305	17
食環境科学部	食環境科学科	120	120	141	141	
	（フードサイエンス専攻）	(70)	(70)	(83)	(83)	
	（スポーツ・食品機能専攻）	(50)	(50)	(58)	(58)	
	健康栄養学科	100	100	100	100	
	計	220	220	241	241	
合計	5,515	21,460	25,496	6,456	201	5,543

※ 学生数は平成25(2013)年5月1日現在の数

1. 法人の概要

(4) 学校・学部・学科等の学生数等

学部（第2部）

（単位：人）

学部・学科（専攻）	入学定員数	収容定員数	学生数	入学者数	卒業生数		
					9月卒業	3月卒業	
文学部	東洋思想文化学科	30	30	29	29		
	インド哲学科		90	93			20
	日本文学文化学科	80	320	321	82		64
	教育学科	40	160	182	40		39
	計	150	600	625	151		123
経済学部	経済学科	150	600	638	168	11	128
経営学部	経営学科	110	440	462	117	4	89
法学部	法律学科	120	480	491	135		89
社会学部	社会学科	130	520	518	129		125
	社会福祉学科	45	200	148	32		36
	計	175	720	666	161		161
合計		705	2,840	2,882	732	15	590
第1部・第2部 合計		6,220	24,300	28,378	7,188	216	6,133

※ 学生数は平成25(2013)年5月1日現在の数

※ 第2部社会学部は3年次編入学定員10人あり

博士前期・修士課程

（単位：人）

研究科・専攻	入学定員数	収容定員数	学生数	入学者数		修了者数	
				4月入学	10月入学	9月修了	3月修了
文学研究科	哲学専攻	5	10	16	6		8
	仏教学専攻			2			2
	インド哲学仏教学専攻	4	8	13	5		6
	国文学専攻	10	20	11	3		6
	中国哲学専攻	4	8	6	2		1
	英文学専攻	5	10	3	2		0
	史学専攻	6	12	9	4		5
	教育学専攻	20	40	9	5		3
	英語コミュニケーション専攻	10	20	8	1		6
	計	64	128	77	28		37
社会学研究科	社会学専攻	10	20	14	7		5
	社会心理学専攻	12	24	6	2		2
	計	22	44	20	9		7
法学研究科	私法学専攻	10	20	13	4		8
	公法学専攻	10	20	20	7		10
	計	20	40	33	11		18
経営学研究科	経営学専攻	10	20	23	7	1	15
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	20	40	21	12	0	8
	マーケティング専攻	10	20	20	7	1	12
	計	40	80	64	26	0	35
工学研究科	機能システム専攻	24	48	49	24	0	16
	バイオ・応用化学専攻	20	40	20	11	0	7
	環境・デザイン専攻	18	36	36	14	0	16
	情報システム専攻	23	46	32	11	3	15
	計	85	170	137	60	3	54
経済学研究科	経済学専攻	10	20	13	1	0	8
	公民連携専攻	30	60	47	17	2	12
	計	40	80	60	18	2	20
国際地域学研究科	国際地域学専攻	15	30	24	10	3	7
	国際観光学専攻	10	20	12	6	2	3
	計	25	50	36	16	5	10
生命科学研究科	生命科学専攻	20	35	58	31	0	24
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	20	40	26	13	0	8
	福祉社会システム専攻	20	40	20	7	0	7
	ヒューマンデザイン専攻	20	40	11	1	0	10
	人間環境デザイン専攻	10	20	12	2	1	7
	計	70	140	69	23	0	32
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	12	24	34	25	2	6
合計		398	791	588	247	12	243

※ 学生数は平成25(2013)年5月1日現在の数

1. 法人の概要

(4) 学校・学部・学科等の学生数等

博士後期課程

(単位:人)

研究科・専攻	入学 定員数	収容 定員数	学生数	入学者数		修了者数	
				4月入学	10月入学	9月修了	3月修了
文学研究科	哲学専攻	3	9	4	1		1
	仏教学専攻			6			0
	インド哲学仏教学専攻	3	9	3	1		0
	国文学専攻	3	9	11	2		0
	中国哲学専攻	3	9	1	0		0
	英文学専攻	3	9	4	1		0
	史学専攻	3	9	6	2		0
	教育学専攻	4	12	7	2		0
	英語コミュニケーション専攻	5	15	3	1		0
計	27	81	45	10		1	
社会学研究科	社会学専攻	3	9	14	2		1
	社会福祉学専攻			1			0
	社会心理学専攻	5	15	6	0		2
	計	8	24	21	2		3
法学研究科	私法学専攻	5	15	4	1		0
	公法学専攻	5	15	9	0		2
	計	10	30	13	1		2
経営学研究科	経営学専攻	5	15	6	0	0	0
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	5	15	6	1	0	0
	マーケティング専攻	3	6	0	0	0	0
	計	13	36	12	1	0	0
工学研究科	機能システム専攻	6	18	3	0	2	1
	バイオ・応用化学専攻	6	18	5	2	0	0
	環境・デザイン専攻	6	18	3	1	1	0
	情報システム専攻	6	18	5	3	2	0
	計	24	72	16	6	5	1
経済学研究科	経済学専攻	3	9	4	2		0
国際地域学研究科	国際地域学専攻	5	15	7	1	2	2
	国際観光学専攻	3	9	4	1	0	1
	計	8	24	11	2	2	3
生命科学研究科	生命科学専攻	4	12	7	2	1	0
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	5	15	35	2		0
	ヒューマンデザイン専攻	5	15	21	5		1
	人間環境デザイン専攻	4	12	2	1		0
	計	14	42	58	8		1
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	4	12	17	1	2	2
合計	115	342	204	35	10	7	12

※ 学生数は平成25(2013)年5月1日現在の数

専門職大学院

(単位:人)

研究科・専攻	入学 定員数	収容 定員数	学生数	入学者数	修了者数	
					9月修了	3月修了
法務研究科 法務専攻	40	120	29	10	3	5
合計	40	120	29	10	3	5

※ 学生数は平成25(2013)年5月1日現在の数

通信教育部

(単位:人)

学部・学科	入学 定員数	収容 定員数	学生数	入学者数		卒業生数	
				4月入学	10月入学	9月卒業	3月卒業
文学部	国文学科		15			0	0
	日本文学文化学科	1,000	4,000	726	100	30	3
法学部	法律学科	1,000	4,000	274	47	9	1
合計	2,000	8,000	1,015	147	39	4	35

※ 学生数は平成25(2013)年5月1日現在の数

1. 法人の概要

(4) 学校・学部・学科等の学生数等

附属高等学校等

(単位:人)

高等学校名	入学定員数	収容定員数	生徒数	入学者数	卒業者数
附属姫路高等学校	600	1,800	1,143	438	325
附属牛久高等学校	535	1,605	1,686	580	558
京北高等学校	250	750	295	101	104
京北学園白山高等学校	200	600	182	39	79
合計	1,585	4,755	3,306	1,158	1,066

中学校名	入学定員数	収容定員数	生徒数	入学者数	卒業者数
京北中学校	120	360	100	26	37

幼稚園名	入学定員数	収容定員数	園児数	入学者数	卒園者数
京北幼稚園	35	105	105	35	35

附属高等学校等合計	1,740	5,220	3,511	1,219	1,138
-----------	-------	-------	-------	-------	-------

※ 生徒数・園児数は平成25(2013)年5月1日現在の数

※ 附属姫路高等学校の募集定員は400人

※ 京北高等学校の募集定員は160人

※ 京北学園白山高等学校の募集定員は160人

※ 京北中学校の募集定員は90人

(5) 役員等

平成 26(2014)年 3月 31日現在

総長	塩川正十郎																					
理事長	福川伸次																					
常務理事	大熊廣一	田淵順一	松尾友矩																			
常任理事	神林新																					
理事	安斎隆	石坂康倫	金子光一	金子律子	熊谷一雄	熊田裕之	小嶋正稔	高野紀元	竹村牧男													
	寺田信幸	東郷武	戸田俊太郎	中村平	針替淳行	半田久米夫	藤田耕三	森政春	森田重則													
監事	安藤昌弘	清野直志	田中哲夫	油井貫行																		
評議員	旭貴朗	安藤良顕	飯塚和夫	石水勲	泉山元	今成昭	井村睦昭	遠藤隆二	大山隆玄													
	岡崎涉	岡田裕	小川芳樹	奥野正晴	小澤孝	加藤建二	金子光一	金子律子	川合善明													
	菊田廣文	喜成清重	木村睦	清澤文彌太	窪菌隆	栗原実	小嶋正稔	後藤邦春	小林恒夫													
	坂本健	櫻本正樹	佐々木啓介	清水哲雄	白石弘巳	杉本富利	鈴木貞一郎	関賢二	關昭太郎													
	高橋一嘉	田口裕也	塚本正進	津田正臣	寺田信幸	戸田俊太郎	富岡勝則	中村平	中山尚夫													
	成澤廣修	西村信二	根本安男	橋本達明	橋本俊雄	花川與惣太	林清	半田久米夫	福川伸次													
	藤井敏信	藤田耕三	藤本典裕	古澤篤輔	松永安彦	森政春	森田明美	吉田泰彦														
名誉顧問	井上民雄																					
顧問	小林陽太郎	根津嘉澄																				
顧問(学術研究)	掘越弘毅	ハルト・クロト	菅野卓雄	トナルト・キーン																		

(6) 教職員数

(単位:人)

東洋大学	専任教員						非常勤講師	専任職員		
	教授	准教授	講師	助教	助手	計		職員	嘱託	計
	403	168	69	34	8	682	1,268	376	62	438

	専任教諭				非常勤教諭	専任職員		
	職員	嘱託	計	職員		嘱託	計	
附属姫路高等学校			65		23	5	7	12
附属牛久高等学校			73		31	8	4	12
京北高等学校			24		12			
京北中学校			14		2	7	2	9
京北学園白山高等学校			20		3			
京北幼稚園			7		0	0	0	0
計			203		71	20	13	33

合計	885	1,339	396	75	471
----	-----	-------	-----	----	-----

平成25(2013)年5月1日現在

1. 法人の概要

(7) キャンパス等

白山キャンパス

- 文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部
国際地域学部
 - 文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経営学研究科
経済学研究科、国際地域学研究科、福祉社会デザイン研究科
 - 法務研究科（法科大学院）
 - 通信教育部
- 〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
- ・都営地下鉄三田線「千石」駅
A1出口から「正門・西門」徒歩8分
 - ・都営地下鉄三田線「白山」駅
A3出口から「正門・南門」徒歩5分
A1出口から「西門」徒歩5分
 - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅
1番出口から「正門・南門」徒歩5分
 - ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅
1番出口から「正門・南門」徒歩15分
 - ・JR山手線「巣鴨」駅
南口から「正門・西門」徒歩20分
都営バス10分（「浅草寿町」行「東洋大学前」下車）
- ◆土地 34,278.06㎡
 - ◆建物 106,056.36㎡

白山第2キャンパス

- 〒112-0001 東京都文京区白山2-36-5
- ・都営地下鉄三田線「白山」駅
A1出口から徒歩6分
 - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅
1番出口から徒歩10分
- ◆土地 18,571.00㎡
 - ◆建物 0㎡

川越キャンパス

- 理工学部（工学部）、総合情報学部
 - 工学研究科、学際・融合科学研究科
- 〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100
- ・東武東上線「鶴ヶ島」駅 東口から徒歩10分
- ◆土地 286,981.00㎡
 - ◆建物 76,453.41㎡

朝霞キャンパス

- ライフデザイン学部
 - 福祉社会デザイン研究科
- 〒374-0193 埼玉県朝霞市岡48-1
- ・東武東上線「朝霞台」駅 北口から徒歩10分
 - ・JR武蔵野線「北朝霞」駅 南口から徒歩10分
- ◆土地 79,791.00㎡
 - ◆建物 48,541.00㎡

板倉キャンパス

- 生命科学部、食環境科学部
 - 生命科学研究科
- 〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1
- ・東武日光線「板倉東洋大前」駅 西口から徒歩10分
- ◆土地 331,963.00㎡
 - ◆建物 34,279.45㎡

大手町サテライト

- 経済学研究科公民連携専攻
- 〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル1F
- ・JR「東京」駅 徒歩5分
 - ・東京メトロ東西線「大手町」駅 B3出口から徒歩1分
 - ・東京メトロ半蔵門線、東京メトロ丸の内線「大手町」駅
A5出口から徒歩2分
 - ・都営地下鉄三田線、東京メトロ千代田線「大手町」駅
徒歩5分
- ◆面積 235.22㎡（賃借）

総合スポーツセンター

- 〒115-0053 東京都板橋区清水町92-1
- ・都営地下鉄三田線「板橋本町」駅 A2出口から徒歩7分
- ◆土地 20,705.49㎡
 - ◆建物 16,112.49㎡

附属姫路高等学校

- 〒671-2201 兵庫県姫路市書写1699
- ・JR山陽本線「姫路」駅 北口からバスで約25分
（「東洋大学姫路高校」下車）
- ◆土地 106,619.79㎡
 - ◆建物 16,655.38㎡

附属牛久高等学校

- 〒300-1211 茨城県牛久市柏田町1360-2
- ・JR常磐線「牛久」駅 東口から徒歩約20分
- ◆土地 76,131.76㎡（借地含む）
 - ◆建物 21,583.29㎡

赤羽台キャンパス

- 京北高等学校
 - 京北学園白山高等学校
 - 京北中学校
- 〒115-0053 東京都北区赤羽台1-7-12
- ・JR京浜東北線・埼京線・湘南新宿ライン「赤羽」駅
西口（北改札・南改札とも）から徒歩9分
 - ・東京メトロ南北線・埼玉高速鉄道「赤羽岩淵」駅
2番出口から徒歩10分
- ◆土地 14,136.00㎡
 - ◆建物 9,422.29㎡

京北幼稚園

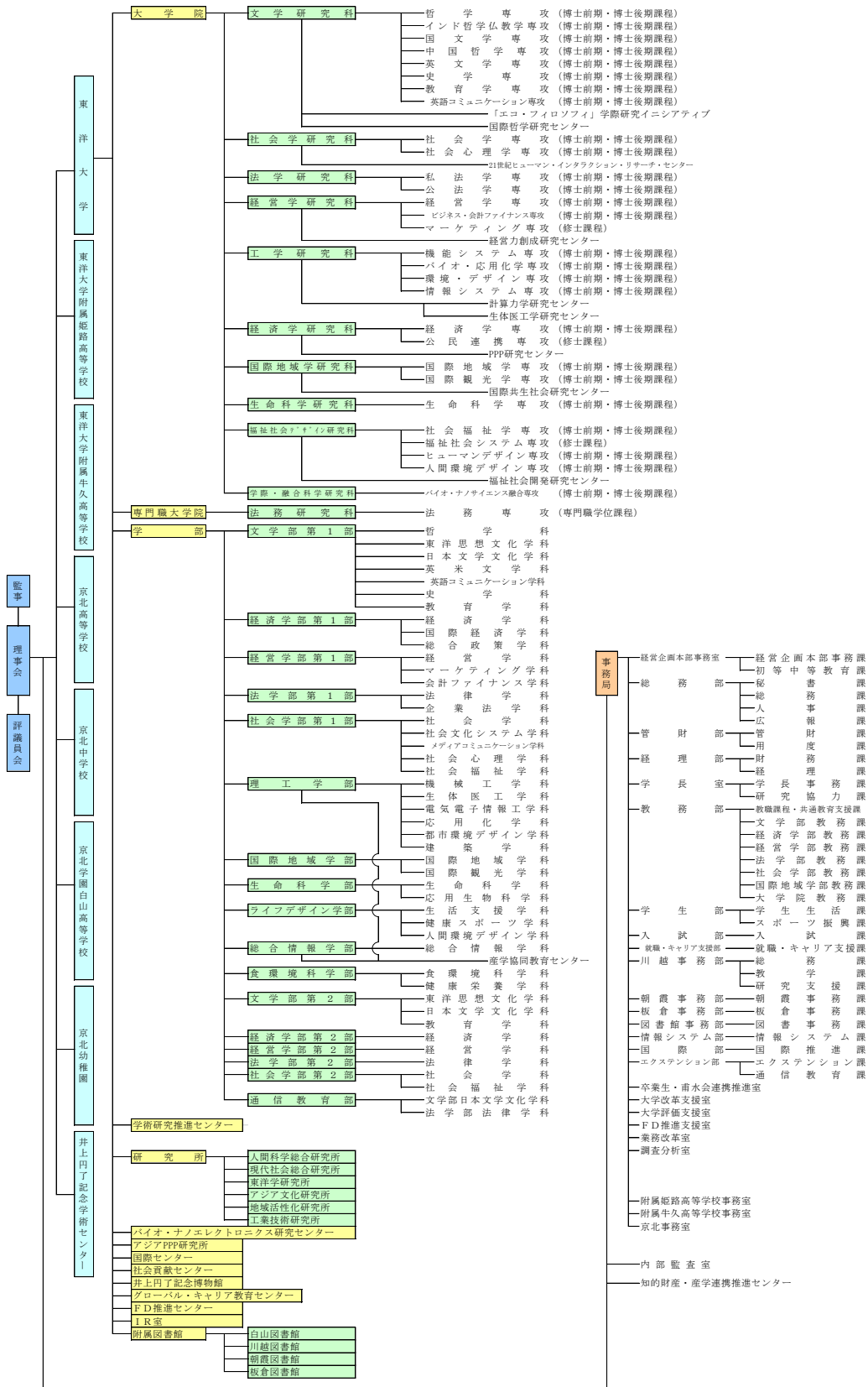
- 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-13-5
- ・都営地下鉄三田線「千石」駅 A1出口から徒歩3分
 - ・JR山手線「巣鴨」駅 南口から徒歩15分
 - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口から徒歩15分
- ◆土地 1,518.54㎡
 - ◆建物 739.39㎡



1. 法人の概要

(8) 組織図 平成 26 年 3 月 31 日現在

学校法人 東洋大学 組織図



1. 法人の概要

(9) 学生生徒等納付金額一覧

学部（第1部） (単位:円)

学部名	新入生	2年次以降
文学部(教育学科初等教育専攻を除く全学科)	1,165,000	915,000
文学部(教育学科初等教育専攻)	1,305,000	1,055,000
経済学部	1,165,000	915,000
経営学部	1,165,000	915,000
法学部	1,165,000	915,000
社会学部(社会学科・社会文化システム学科)	1,165,000	915,000
社会学部(社会福祉学科)	1,190,000	940,000
社会学部(メディアコミュニケーション学科)	1,175,000	925,000
社会学部(社会心理学科)	1,180,000	930,000
理工学部	1,570,000	1,320,000
国際地域学部 (国際地域学科地域総合専攻を除く全学科)	1,165,000	915,000
生命科学部	1,565,000	1,315,000
ライフデザイン学部(生活支援学科・健康スポーツ学科)	1,265,000	1,015,000
ライフデザイン学部(人間環境デザイン学科)	1,445,000	1,195,000
総合情報学部	1,465,000	1,215,000
食環境科学部	1,565,000	1,315,000

※ 新入生の金額には、入学金250,000円を含む

※ 上記の金額には、委託されて徴収する費用(校友会費、雨水会費、学生課外活動育成会費)を含む

学部（第2部・イブニングコース） (単位:円)

学部名	新入生	2年次以降
文・経済・経営・法・社会学部	720,000	540,000
国際地域学部 (国際地域学科地域総合専攻(イブニングコース))		

※ 新入生の金額には、入学金180,000円を含む

※ 上記の金額には、委託されて徴収する費用(校友会費、学生課外活動育成会費)を含む

通信教育部 (単位:円)

学部名	新入生	2年次以降
文学部	120,000	100,000
法学部	120,000	100,000

※ 新入生の金額には、入学金20,000円を含む

附属高等学校等 (単位:円)

学校名	1年次	2年次	3年次
附属姫路高等学校	888,600	342,600	342,600
附属牛久高等学校	929,800	549,400	501,400
京北高等学校	859,200	493,200	451,200
京北学園白山高等学校	855,600	491,400	451,200
京北中学校	841,200	517,200	517,200

幼稚園名	年少	年中	年長
京北幼稚園	390,000	300,000	300,000

※ 1年次の金額には、入学時納入金を含む

※ 年少の金額には、入園時納入金を含む

※ 上記の金額には、委託されて徴収する費用を含む(京北幼稚園は除く)

大学院（博士前期・修士課程） (単位:円)

研究科名	新入生	2年次以降
文学研究科	815,000	545,000
社会学研究科	815,000	545,000
法学研究科	815,000	545,000
経営学研究科(ビジネス・会計ファイナンス専攻 中小企業診断士登録養成コースを除く)	815,000	545,000
経営学研究科(ビジネス・会計ファイナンス専攻 中小企業診断士登録養成コース)	1,425,000	1,155,000
工学研究科	1,075,000	805,000
経済学研究科(公民連携専攻除く)	815,000	545,000
経済学研究科(公民連携専攻)	1,175,000	905,000
国際地域学研究科	815,000	545,000
生命科学研究科	1,075,000	805,000
福祉社会デザイン研究科	815,000	545,000
学際・融合科学研究科	1,075,000	805,000

大学院（博士後期課程） (単位:円)

研究科名	新入生	2年次以降
文学研究科	795,000	525,000
社会学研究科	795,000	525,000
法学研究科	795,000	525,000
経営学研究科	795,000	525,000
工学研究科	1,025,000	755,000
経済学研究科	795,000	525,000
国際地域学研究科	795,000	525,000
生命科学研究科	1,025,000	755,000
福祉社会デザイン研究科	795,000	525,000
学際・融合科学研究科	1,025,000	755,000

※ 本学の学部(通信教育課程を除く)から大学院へ進学する場合は、入学金を免除

※ 本学の大学院博士前期課程から博士後期課程へ進学する場合は、入学金を免除

※ 新入生の金額には、入学金270,000円を含む

※ 上記の金額には、委託されて徴収する費用(校友会費)を含む

専門職大学院 (単位:円)

研究科名	新入生	2年次以降
法務研究科	1,305,000	1,055,000

※ 本学出身者(通信教育課程を除く)は、入学金を免除

※ 新入生の金額には、入学金250,000円を含む

※ 上記の金額には、委託されて徴収する費用(校友会費)を含む

2. 事業の概要

(1) ハイライト

■食環境科学部を開設

平成9年に板倉キャンパスに創設された生命科学部は、当初は生命科学科のみでスタートしました。

その後、バイオテクノロジー領域への注目度が高まり、平成21年には応用生物科学科と食環境科学科が創設され3学科体制となりました。そして、平成25年には、新たに「健康栄養学科」を新設し、生命科学部から分離・発展させた食環境科学科とともに、2学科体制の「食環境科学部」を創設しました。

食環境科学科は、「フードサイエンス専攻」と「スポーツ・食品機能専攻」の2つの専攻で構成され、健康栄養学科は、管理栄養士の養成を核に医療・福祉・教育の現場のみならず、これからニーズが高まる地域社会や企業での活躍を視野に入れ、資格を持っているだけではなく、コミュニケーション能力やマネジメント能力を備えた、新時代の人材養成に力を注ぎます。

■東洋思想文化学科を開設

インド哲学科と中国哲学文学科を統合再編し、「東洋思想文化学科」を開設しました。

東洋の思想や文化を幅広く学ぶとともに、4つのコースに分かれて専門的に学ぶことで、世界を見渡す広い視野と、自分自身を深く見つめる眼力を養います。また、異文化理解に不可欠な語学学習にも力を入れ、語学力を生かして国際社会で活躍できる、豊かな教養と国際性をそなえた人材を育てます。

日本、中国、韓国、インド、チベットをはじめとするアジア諸国・地域の思想・文化を網羅的に学べるカリキュラムを組むとともに、2年次からは「インド思想」「中国語・中国哲学文学」「仏教思想」「東洋芸術文化」のいずれかのコースを専攻します。東洋文化圏に対して広い視野を育むとともに、専門性の高い教育を実施します。

語学教育においては、世界の共通言語である英語に加え、中国語、サンスクリット語、パーリ語、チベット語、ヒンディー語など、各自が研究対象とする地域の多彩な言語を習得できる環境を整備し、さらに「実技」や「海外文化研修」等、豊富な体験系科目を設置します。

■東洋大学井上円了哲学塾を開設

混迷を深める現代において、哲学に基づく叡智により自らの価値観を形成し、理想社会の建設に果敢な行動力を発揮する次世代リーダーの育成を目指し、「東洋大学井上円了哲学塾」を開設しました。

本塾においては、哲学を学びの基礎とし、自然・社会・文化等の現代の国際的・先端的な状況も併せて考察し、その成果を現実社会に活かしていく人財（人という財産）を育成します。塾生たちが、職場、地域、ないし国際社会の改革に行動する魅力あるリーダーとなることこそが、本塾の目的です。

第1期生は、社会人・本学および他大学学生などそれぞれ異なるフィールドをもつ43名が入塾しました。

<4つの柱>

- (1) 哲学教育
- (2) プレゼンテーション、ディスカッション能力の向上
- (3) 「世界、特にアジアへ打って出る」という意識を持つこと
- (4) 国際社会への対応力（日本の発信力）の向上

<プログラムの概要>

1. 哲学基礎講座
「東洋哲学と現代社会」をテーマに、本学教員による講義を行い、基本的な哲学的思考力を身につけます。
リーダーシップ・セミナーに向けてプレ・セミナーを行います。
2. 哲学実践講座
2-A. リーダー哲学講義（ゲスト講師による講演）
思想、政治、経済、産業、宗教、文化など多方面に関する、各界で活躍するリーダーによる講演を行います。現代の諸問題について意識を高め、受講者自身が考察する対象を見つけることを目的とします。
2-B. リーダーシップ・セミナー
塾生がテーマを定め研究発表し、その後全員でディスカッションを行います。リーダー哲学講義で聴講した内容を参考に、自らが課題設定を行い研究発表します。
3. ファイナル・レポート（最終報告書）
プログラムのまとめとして、グループごとに最終報告書を作成、口頭および文書により発表します。塾生は個人ではなく共同で最終報告を準備、実施することで、情報・意見交換や効果的な連携作業の方法などを学び、また同じゴールを目指すメンバーの連帯感などを体験します。

「東洋大学井上円了哲学塾」開設記念特別シンポジウム

平成25年6月29日、井上円了ホールにて「東洋大学井上円了哲学塾」の開設を記念して『地球社会の未来と哲学の課題』と題した特別シンポジウムが開催され、400名を超える参加がありました。

2. 事業の概要

(1) ハイライト

「東洋大学井上円了哲学塾」開設記念特別シンポジウム
■基調講演「地球文明のなかの哲学」
村上陽一郎氏（東洋英和女子学院大学学長）
■パネルディスカッション
「現代社会と哲学する心」
竹村牧男（東洋大学学長・文学部教授）
「地球社会への日本思想からの発信」
竹内整一氏（鎌倉女子大学教授）
「日本・アジアの経済活動と東洋思想」
吉田善一（東洋大学理工学部教授・産学協同教育センター長）

■東洋大学「独立自活」支援奨学金

東洋大学独立自活支援奨学金とは、在学中に大学事務局において就業し勉学と経済的自立を両立させる意欲のある者に学費を減免する制度です。今年度からの取り組みである東洋大学独立自活支援推薦入試で入学する方を対象としています。

本制度は、「余資なき優暇なき者のために」と学びの門戸を開いた創業者・井上円了の志を受け継いで、東洋大学では意欲のある人が一人でも多く学ぶことができるよう、制定されました。

※独立自活とは、単に受け身的に人生を送るのではなく自主的・主体的に行動する力を身につけることを意味する、東洋大学の「建学の精神」のひとつです。

■ブランド力の強化

ブランドマークの制定

ブランドマークは、東洋大学の教育理念を象徴化したもので、視覚的コミュニケーションの核となる重要な要素です。東洋大学は、平成 24 年 11 月に創立 125 周年を迎えました。これを機に、創立以来の「東洋大学の DNA」を守りながら、次の 150 周年に向け、地球社会の未来に貢献する大学の確立を求め、新たな歴史を創出することを誓い、その思いを込めた新たなブランドマークを制定しました。

新しいブランドマークは、人と地球をモチーフに学生がダイナミックにグローバルに世界に向かって羽ばたく姿を象徴しています。また、「哲学」を基盤とし「国際化」「キャリア教育」による「グローバル人財」の育成や、高い志を持って上昇、飛翔していく喜びや未来への期待感を表現しています。

スクールカラーイベント「鉄紺 Days」

平成 25 年 12 月 10 日～12 日の 3 日間、スクールカラーである「鉄紺(紺色)」を身につける「鉄紺 Days」

を白山・朝霞・川越・板倉の 4 キャンパスで同時開催しました。東洋大学伝統の「鉄紺」は、教育理念を象徴化、視覚的に表現したカラーとして、東洋大学のイメージを統一的に伝えていく役割を果たします。併せて「鉄紺」を身につけることで帰属意識を喚起し、東洋大学に所属することの意義の醸成を目指しました。

授業時のチャイム変更

平成 25 年度より全キャンパスの授業時のチャイムが変更になりました。従来のチャイムを応援歌のメロディに変更しました。

現在歌われている「応援歌」は、昭和 36 年に東洋大学校友会が歌詞を懸賞募集したものです。大学祭当日に発表されたこの歌は学生の間に好評を博し、スポーツ応援などの場面で現在まで歌い継がれています。上記スクールカラーイベントとあわせて、本学学生としての帰属意識の喚起を目指しました。

公式 Web サイトのリニューアルオープン

新ブランドマーク制定に伴い、東洋大学公式 Web サイト（ホームページ）を、5 年ぶりにリニューアルしました。新しいトップページは、東洋大学を象徴する鉄紺を基調とし、訪問者別メニューを体型別に整理。大学紹介や各学部・大学院の紹介のほか、イベント情報や新着情報など、タイムリーな情報に迷うことなくアクセスすることができます。また、公式 Facebook ページもオープンし、「大学スポーツ」および「現代学生百人一首」に特化したサブページを運用し、関心層に対してタイムリーな情報発信を行っています。

プレスミーティングを開催

平成 25 年 7 月 23 日、白山キャンパス内「125 記念ホール」にマスコミ・メディア関係者をお招きして「東洋大学プレスミーティング」を開催しました。プレスミーティングは、理事長及び学長による中・長期的な方針や、学内の各種取り組みを報道各社に発表することで、メディアに取り上げられる機会の獲得や今後の取材依頼に発展させることを目的としています。出席した 49 媒体 74 名のメディア関係者に対し、プレゼンテーションやポスターセッションによる事例発表を行い、新聞や雑誌、テレビなど 30 を越える媒体で発表内容が取り上げられました。

2. 事業の概要

(2) 東洋大学 ①教育事業

■グローバル人材育成推進事業

平成 24 年度、文部科学省「グローバル人材育成推進事業 タイプ B (特色型)」に本学国際地域学部の取り組みが採択され (平成 24 年度～平成 28 年度)、今年度も各種事業を実施しております。

「グローバル人材育成推進事業」は、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化を基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し、活躍できる人材の育成を図るべく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進する事業に対して、重点的に財政支援することを目的としたものです。

国際地域学部が採択された「タイプ B (特色型)」には、全国の国公立大学から 111 件 (私立大 54 件) の申請があり、うち 31 件 (私立大 15 件) が採択されております。

グローバル人材育成推進事業公開セミナー

平成 25 年 6 月 14 日、白山キャンパスにて、グローバル人材育成推進事業公開セミナー「E ポートフォリオを活用した国際教育活動の実践-海外学習の成果をどう可視化するか-」が実施されました。当日は、本事業採択校の教職員を中心に約 80 名の大学関係者が集まりました。

「E ポートフォリオを活用した国際教育活動の実践-海外学習の成果をどう可視化するか-」
司会進行：芦沢真五 (東洋大学国際地域学部教授)
1. ご挨拶 藤井敏信 (東洋大学国際地域学部学部長)
2. 東洋大学グローバル人材育成推進事業概要
高橋一男 (東洋大学国際地域学部教授)
3. 講演 1 「グローバル協働教育プログラムにおける E ポートフォリオの実践」
カッティング 美紀氏 (立命館アジア太平洋大学 教育開発・学修支援センター准教授、大学の世界展開力強化事業「GLUE ~グローバル協働教育プログラム」担当)
4. 講演 2 「ToyoRDS Folio の開発について」
荒巻俊也 (東洋大学国際地域学部教授)

平成 25 年 11 月 22 日、11 月 29 日の 2 週に渡り、白山キャンパスにおいて、グローバル人材育成推進事業「連続公開セミナー」を開催しました。

＜グローバル人材育成推進事業連続公開セミナー＞
主催：国際地域学部
共催：東洋大学
学長室／国際センター／グローバルキャリア教育センター
後援：NPO 法人 JAFSA (国際教育交流協議会)

平成 25 年 11 月 22 日 (参加者 132 名)
第 1 回「大学国際化は公的資金依存から脱却できるか？」
講演：芦沢真五 (東洋大学国際地域学部教授)

発表：足立心一氏 (早稲田大学国際部事務部長)
植村泰佳氏 (武蔵学園理事)

平成 25 年 11 月 29 日 (参加者 96 名)
第 2 回「海外学習の多様化と学習成果分析」
報告：「多様化する海外学習機会と質保証のあり方」
芦沢真五 (東洋大学国際地域学部教授)
講演：「日本・インドネシアの農村漁村で展開する海外学習プログラムと課題」
小林 修氏 (愛媛大学准教授)
花田真吾氏 (愛媛大学講師)
講演：「グローバル・コンピテンシー」
工藤和宏氏 (獨協大学講師)
事例報告：川澄厚志 (東洋大学国際地域学部講師)
眞子 岳 (東洋大学国際地域学部助教)
中山千尋 (東洋大学国際地域学部講師)
小早川裕子 (東洋大学国際地域学部講師)

■未来を拓くトップセミナー

井上円了ホールにおいて、「諸学の基礎は哲学にあり」という本学の建学の精神の理解を深め、これを実社会に役立てる能力を高めるため、各界で指導的な活躍をしている方々を講師として招き特別講演会「未来を拓くトップセミナー」を開催しました。

本講演を通じて社会のリーダーの経験と知見を学び、学生が自身を見出す契機とするとともにキャリア形成に役立てることを目的としています。

◆第 1 回
日 時：平成 25 年 10 月 31 日
講 演：小林栄三氏 (伊藤忠商事株式会社 代表取締役会長)
「グローバル時代の日本の進路 -総合商社の視点から-」
聴講者：約 700 名

◆第 2 回
日 時：平成 25 年 11 月 20 日
講 演：安斎 隆氏 (株式会社セブン銀行 代表取締役会長)
「新しい価値の創造を目指して -我が人生と若者に期待すること-」
聴講者：約 400 名

◆第 3 回
日 時：平成 25 年 12 月 3 日
講 演：遠山敦子氏 (公益財団法人トヨタ財団 理事長、元文部科学大臣)
「挑戦 (チャレンジ) する楽しみ」
聴講者：約 530 名

◆第 4 回
日 時：平成 25 年 12 月 16 日
講 演：根津公一氏 (株式会社東武百貨店 取締役会長)
「百貨店経営と美術館経営」
聴講者：約 400 名

2. 事業の概要

(2) 東洋大学 ①教育事業

■「グローバル人財」を育成する3つの柱

哲学教育

創立者・井上円了は、哲学教育を通じて社会の変革に奉仕する人財を育成することを生涯の使命として実践しました。井上円了が伝えた哲学とは、「自ら深く物事の本質に迫って考えることを実践すること」です。

多様化する現代社会では、学問的知識だけでなく、問題の発見能力や解決能力が強く求められています。

こうした「人間としての力」を養い、「自分なりの考え方や、ものの見方ができるようになる」ことが、哲学教育の真の目的です。自分で考え、自発的に行動していく。哲学教育は、グローバル化への対応に必要な力を育む基礎になります。

そうした「哲学すること」の教授を建学の理念とする本学では、より実践的な哲学教育を行うための教材として『哲学しよう！—考えるヒント30—』を制作・刊行しました。この書籍には、「哲学と教育」「地域と社会」「環境と生命」など、現代社会のあり方を示唆する30のテーマが収録されています。竹村牧男学長をはじめとする全学部の教員が各章を分担して執筆し、哲学的思考を実践するためのヒントを提示。平成25年度からはこの書籍をテキストとして活用し、哲学する姿勢を磨くための新たな授業が展開されています。

国際化

国際社会では、自分の意見をはっきりと持ち、発信できることが当然と考えられています。東洋大学では語学教育プログラムをはじめ、留学ネットワークの拡大や海外インターンシッププログラムを充実させ、国際社会で活躍できる人財育成を目指しています。異なる文化の中に飛び込み、多様な人々と対話することで、グローバルな視野と世界に向けた行動力が身につきます。語学教育プログラムでは、英語学習のモチベーションを向上させるため、学生全員が年1回、TOEICを無料で受験できる制度を設置し、語学力強化を図っています。また、米国モンタナ大学の協力による英語特別教育科目「SCAT」などを通じて、「生きた英語」の習得や発言力、積極的な態度など、国際社会で必要とされる資質を磨いていきます。また、学内留学制度を発足させたほか、課外講

座として、本年度より学内英会話スクールを開講しました。

キャリア教育

独立自活の精神に基づき、学生一人ひとりに多様な学習や体験の場を提供します。それにより、学生が生き方や働き方への思考をより深め、自己探求を行い、自主的かつ主体的に行動する力を育てていきます。また、「知徳兼全」を理想とし、正課内外での社会探求を通して、広い視野を身につけ、自らの「哲学する力」を持つことで、キャリアを切り拓きつつ、地球社会の改革に貢献できる優れたグローバル人財を輩出していきます。

そうして東洋大学のキャリア教育の中核を担う存在として平成24年に設置された「グローバル・キャリア教育センター」では、フィロソフィ（哲学）、キャリア（自立心）、グローバル（国際化）の3つの側面から、学生一人ひとりのキャリア構築を支援しています。同センターでは、全学部を対象とする各種講座を、年間通じて実施。グローバル企業で活躍するゲストスピーカーを招いての講座やPBLC課題解決型講座などで社会や企業・仕事に対する理解を深め、これからの時代に必要な国際感覚と職業観を養っていきます。また、国内外のインターンシップもさらに拡充。事前から事後まで総合プログラムにより目的意識の持続やその後の職業観の醸成に活かせるように配慮しています。

■GPAの導入

学生の学習意欲を向上させるきっかけ作りとして、また、学生の学習指導体制の充実や、本学の「教育の質」の向上を検討していくための下地としてGPAの導入を行いました。

GPA (Grade Point Average) とは、授業科目ごとの成績に対して、4.0~0.0のグレード・ポイントを付与し、1単位あたりの平均を算出したものです。これは、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

平成25年度の入学生から成績表に直近累積の値が記載され、海外留学の際の学力指標や、学内奨学金の採用基準となる他、成績優秀者の表彰や、学習指導に利用されています。

2. 事業の概要

(2) 東洋大学 ①教育事業

■FDの取組

<FDとは>

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、一般的には「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組みの総称」と定義されます。

具体的な例として、「教員相互の授業参観」「授業方法についての研究会の開催」「新任教員のための研修会の開催」等が挙げられていますが、単に授業内容・方法にとどまらず、広く教育の改善ととらえ、カリキュラムの改訂や編成なども含め、学生の学習意欲の向上と教育の質の向上を図り、教育目標を現実させることにFDの意義があります。

TA（ティーチング・アシスタント）FD研修会

平成25年4月20日、継続的な教育改善への取り組みの一環として、TAのためのFD研修会を実施しました。昨年度までは白山キャンパスにおいて開催していましたが、4キャンパスそれぞれで実施したことにより、参加率91%と、前年の55%から大きく上昇しました。

新任教員FD研修会

平成25年7月6日、新任教員を対象とする平成25年度新任教員FD研修会を開催し、約50名の参加がありました。

<新任教員FD研修会>

日時：平成25年7月6日（土）

場所：白山キャンパス

プログラム：【ミニシンポジウム】「授業運営の課題と工夫」研修部会

【報告】「学生が望む授業改善、よい授業とは」

東洋大学学生FDスタッフ

【グループディスカッション】

プログラム第1・2部と着任3ヶ月の経験を受けて

関東圏FD連絡会

平成21年度より通算第12回目となる「関東圏FD連絡会（青山学院大学、法政大学、立教大学、東洋大学）」が平成25年6月26日に本学にて開催されました。本学では各大学との連携を深めながら、各大学におけるFD活動の状況や取組について情報交換・収集を行いつつ、FD活動の改善・発展に努めていきます。

全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）に加盟

東洋大学は平成25年9月より全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）に加盟いたしました。このフォーラムは、学生の規模や多様性の面で共通の課題を抱える中規模以上の私立大学が互いに持てる力を

出し合い、FD分野において連携することを目的として平成20年に発足し、本学を含め、全国の32校の大学が加盟しています。

教育改善シンポジウム

平成25年9月28日、白山キャンパスにおいて、教職員を対象に平成25年度教育改善シンポジウム「授業評価アンケートの活用と授業支援システム（ToyoNet-ACE）の実践事例」を開催しました。

教育改善に積極的に取り組んでいる具体的な実践事例の報告を通して、教員各自が教育改善のためのヒントを見つけ出す機会とすることを目的としています。

一般教員FD研修会

平成25年12月20日、教職員を対象に平成25年度一般教員FD研修会を開催し、56名が参加しました。

<一般教員FD研修会>

日時：平成25年12月20日（金）

場所：白山キャンパス

対象：本学教職員

プログラム：【講演】「大学教育の転換～教育力をつくるもの～」

金子元久氏（筑波大学教授東京大学名誉教授）

【報告】「平成25年度新入生アンケートの分析結果」

劉文君（東洋大学IR室准教授）

学部FD活動状況報告会

平成25年12月21日、「学部・学科における教育の質保証のためのPDCAの取組事例」をテーマに平成25年度学部FD活動状況報告会を白山キャンパスにおいて開催し、約50名が参加しました。

新たに設置した食環境科学部を含めた全11学部が報告書をまとめ、今年度は経済・法・国際地域・ライフデザイン・総合情報学部の発表が行われました。

学生FDサミット2014春

FD活動に主体的に参加している学生グループらが全国から集まる「学生FDサミット」が平成26年3月8・9日に東日本で初めて東洋大学にて開催されました。

テーマを「あなたがつくる、大学最高大作戦～めざせ意識改革～」とし、当日はテーマ別しゃべり場やグループワークなど、さまざまな企画が行われ、北は北海道、南は九州まで、学生・教職員・外部の方を合わせて75団体、約620人と、過去最大の参加者数を集めました。

2. 事業の概要

(2) 東洋大学 ①教育事業

■学生のための環境づくり

障がい学生支援室の設置

障がい学生の修学及び学生生活の支援を通じて修学環境の向上を図ることを目的に、平成 25 年 4 月に「障がい学生支援室」（通称：バリアフリー推進室）を開設しました。支援室には、障がい学生支援専任コーディネーターを配置し、支援に関する相談・申請の受け付けを行っています。授業支援としては、授業受講時にノートテイク・パソコンテイク・手話通訳・代筆等を行う支援スタッフを配置しています。また、点字プリンタを利用して、授業配布資料のテキストデータ化・点字化を行っています。その他、疲れやすい障がい学生の休憩の場、ピアサポートの場としても有効に利用されています。

■就職支援の充実

東洋大学会社説明会～10 学部合同就活 LIVE～

平成 26 年 2 月 13 日、池袋サンシャインシティにて全キャンパスの 3 年生・大学院生を対象に「東洋大学会社説明会～10 学部合同就活 LIVE～」を開催しました。知名度の高い企業に偏りがちな学生の視野を広げさせることを目的に例年開催している本説明会には、今年度 125 社の企業に対し 1,185 名の学生が参加しました。

■活発な課外活動

フィリピン共和国支援

平成 25 年 11 月 8 日、フィリピン共和国中部を台風 30 号が直撃し、緊急支援が求められています。救援から復興を段階的に実現するべく、国際地域学部を中心としたフィリピンを支援する 4 団体（ConnAction、Salamat、Needs of Asia、UP）と日本国内の様々な NPO や起業家が、共同プロジェクト「Oriental Sky Project」を発起しました。この第 1 回目の企画として、平成 25 年 12 月 6 日、白山キャンパスにて、フィリピンの現地 NGO を支援するための Fundraising Party を行いました。レイテ島及びフィリピンへの支援を希望する学生及び教職員、関係者約 233 名が集う盛会となりました。同プロジェクト「Oriental Sky Project」及び学生有志は、被災地を訪れるほか、数年にわたって支援活動を続け

ていきます。

東北応援プロジェクト（TOP）

本学では、平成 23・24 年に行った「東北応援プロジェクト（TOP）」を継続し、学生を多数派遣しています。平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、今もなお復旧の足取りが進んでいない地域もあるという現状の中で、まだまだ若い力が必要とされています。被災地の 1 日でも早い復興の力になれるよう、引き続き TOP の取り組みを続けていきます。

<東北応援プロジェクト（TOP）2013>

遠野	H25/8/19～9/16	参加者約 70 名
気仙沼	H25/8/10～9/14	参加者約 100 名
遠野	H26/2/25～3/18	参加者約 50 名
気仙沼	H26/2/13～3/24	参加者約 100 名

運動部の活躍

相撲部は平成 25 年 5 月 5 日、福岡県・久山相撲場にて開かれました「第 23 回全国選抜大学・社会人対抗相撲九州大会」において、団体戦で優勝しました。個人戦でも大道久司選手（企業法学科）が優勝し、団体戦、個人戦ともに強豪を破り、初めての優勝となりました。また、平成 25 年 11 月 2 日・3 日、大阪府堺市で行われた「第 91 回全国学生相撲選手権大会」の団体戦で優勝を果たし、11 年ぶり 3 回目の学生日本一を成し遂げました。

陸上競技部は、平成 26 年 1 月 2 日・3 日に行われた「第 90 回東京箱根間往復大学駅伝競走」において、往路優勝・復路優勝・総合優勝を成し遂げました。なお、復路は大会新記録を樹立しての完全優勝となり、個人記録においては、5 選手（3・5・7・8・10 区）が区間賞を獲得し、10 区・大津頭杜選手（経済学科）が最優秀選手賞（MVP）である「金栗四三杯」を受賞しました。

水泳部は、平成 25 年 4 月 11 日～14 日に開催された「第 89 回日本選手権（於 ダイエープロビスフェニックスプール）」において、萩野公介選手が 5 冠（400m 個人メドレー（日本新）、200m 個人メドレー（日本新）、200m 自由形、100m 背泳ぎ、400m 自由形）を獲得し、山口観弘選手（200m 平泳ぎ）、地田麻未選手（800m 自由形）も優勝しました。さらに、平成 25 年 11 月 9 日～10 日に開催された「FINA 競泳ワールドカップ東京 2013」では、萩野公介選手が 3 冠（1500m 自由形、100m 個人メドレー（日本新）、200m 個人メドレー（日本新））を獲得しました。

2. 事業の概要

(2) 東洋大学 ②研究事業

■研究活動の情報発信

「Bio Japan 2013」

平成 25 年 10 月 9 日～11 日にパシフィコ横浜で開催された「Bio Japan 2013」にバイオ・ナノエレクトロニクス研究センターがブース出展しました。15 回目の開催となるこのイベントは、創薬だけではなく機能性食品や医療機器、環境分野まで網羅し、バイオの総合展として年々発展しています。本学の出展ブースではバイオ・ナノエレクトロニクス研究センターの研究内容紹介、ポスター展示を行うとともに、「研究成果・シーズ集」等大学関係資料の配布を行い、総合大学として幅広い分野の研究を行っていることを来場者に PR しました。

板倉キャンパスシンポジウム 研究成果・シーズ展

平成 25 年 11 月 29 日、板倉キャンパスにて「板倉キャンパスシンポジウム 研究成果・シーズ展」が開催されました。従来の「生命科学部シンポジウム」を「板倉キャンパスシンポジウム」として展開し、「研究成果・シーズ展」と同時開催したものです。地域住民および関係企業・本学学生を含む約 600 名が参加しました。

「板倉キャンパスシンポジウム」は本学の研究・教育の一端を講演しました。

「板倉キャンパスシンポジウム」
■特別講演「好熱菌の耐熱分子機構：好熱菌はなぜ茹でないのか」
大島泰郎氏（共和化工株式会社 環境微生物学研究所所長）
■講演
「微生物の電気共生」
渡邊一哉氏（東京薬科大学生命科学部教授）
「奇妙な球菌が持つ放射線耐性のしくみ」
鳴海一成（東洋大学生命科学部教授）

「研究成果・シーズ展」は毎年開催し、東洋大学が有する「知」の一端を産業界等に広く紹介し、協働して現代社会の課題解決に貢献する技術や方法論を開発することを目指すものです。研究所等文理・キャンパスの枠を超えた東洋大学の研究成果が広く公開されました。

東洋大学 新技術説明会

平成 26 年 1 月 17 日に「東洋大学 新技術説明会」を科学技術振興機構・J S T 東京別館ホール（市ヶ谷）で開催致しました。

このイベントは大学の知的財産活用を目的とし、

大学発のライセンス可能な特許（未公開特許を含む）を発表するもので、研究者（特許発明者）自身が、企業関係者を対象に実用化を展望した技術説明を行い、広く実施企業・共同研究パートナーを募りました。

当日は、「環境」「ライフサイエンス」「計測」「材料」の 4 分野に関する本学選りすぐりの新技術 9 テーマを発表しました。

終了後には複数の企業担当者が、研究者との名刺交換・個別相談に参加し、今後の産学連携活動の可能性について情報交換を行いました。

■研究センターの活動

東北復興支援学術コンペティション

平成 26 年 2 月 14 日、東洋大学 125 記念ホールにて、「世界の専門家から見た東北復興支援学術コンペティション」研究発表会を開催しました。

本コンペは、東北復興に世界の知見と PPP（Public - Private Partnership：官・民・市民の連携）のアイデアを生かすために、東洋大学が世界の 13 の大学院を招待して昨秋に実施しました。東北再生委員会がまとめた 3 分野 11 項目の提言を参考資料として示し、被災地の復興、持続可能な発展を PPP の手法により実現するアイデアを募りました。

当日は優秀校に選ばれた 3 校の学生が来日し、アイデアのプレゼンテーションが行われました。

「Tohoku Recovery Academic Competition」優秀校
第 1 位：ハーバード大学デザイン大学院（アメリカ）
第 2 位：建築・土木・測地学大学院（ブルガリア）
第 3 位：クイーンズランド州立大学大学院（オーストラリア）

公開シンポジウム「南方熊楠：神と人と自然」

「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ（TIEPh）は、日本における「エコロジー」の先駆者である南方熊楠をテーマに『南方熊楠：神と人と自然』と題して公開シンポジウムを開催しました。

<公開シンポジウム「南方熊楠：神と人と自然」>
日時：平成 25 年 10 月 12 日（土）
場所：東洋大学 白山キャンパス
主催：「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ・南方熊楠顕彰会
協力：田辺観光協会
協賛：紀南文化財研究会・南紀生物同好会・田辺市熊野ツーリズムビューロー
後援：和歌山県・田辺市

2. 事業の概要

(2) 東洋大学 ②研究事業

<公開シンポジウム「南方熊楠：神と人と自然」>プログラム

◆基調講演

講師：荒俣 宏氏（博物学者・作家）

「熊楠と紀州的自然観 -東北的自然観との比較をみつめて」

◆研究発表

唐澤太輔氏（早稲田大学社会科学総合学術院助教）

『南方曼陀羅』の新たな次元へ -理不思議と大不思議-

野村英登（東洋大学 TIEPh 研究員）

「南方熊楠の修養法」

増尾伸一郎氏（東京成徳大学教授）

「南方熊楠の比較説話研究と大蔵経 -『田辺拔書』の黄檗版抄録の意義について」

安田忠典氏（関西大学准教授）

「南方熊楠と紀州田辺」

◆パネルディスカッション

司会：田村義也氏（南方熊楠顕彰会常任理事）

パネリスト：荒俣 宏、唐澤太輔、野村英登、増尾伸一郎、安田忠典

学術研究推進センターシンポジウム「いのちの尊さを考える」

平成 26 年 1 月 11 日に白山キャンパスにて、学術研究推進センターシンポジウム「いのちの尊さを考える」を開催しました（「エコ・フィロソフィ」学術研究イニシアティブと共催）。

<学術研究推進センターシンポジウム「いのちの尊さを考える」>

◆基調講演

村上和雄氏（筑波大学名誉教授）

「いのちの奥にあるもの」

◆シンポジウム「生命の多様性とかけがえのなさ」

寺田信幸（東洋大学理工学部教授）

「自律神経が織りなすいのちの妙」

金子律子（東洋大学生命科学部教授）

「生物の多様性の紹介」

白石弘巳（東洋大学ライフデザイン学部教授）

『「生きること」と『生かされること』の相克としてのいのち」

河本英夫（東洋大学文学部教授）

「リハビリテーションと自己組織化」

◆パネルディスカッション

司会：岡崎 渉（東洋大学生命科学部教授）

◆総括

白川部達夫（東洋大学学術研究推進センター長、文学部教授）

約 60 名が参加し、質疑応答も盛況に行われました。

■産学協同教育センター

「ものづくり指導者養成支援事業」受講生が、平成 25 年 5 月 18 日の東洋大学産学協同教育センターの講義 1 コマ（2 時間半）を担当し、実践デビューを果たされました。東洋大学産学協同教育センターでは、今後も「ものづくり指導者」の育成に寄与していきます。

なお、「ものづくり指導者養成支援事業」（経済産業省補助事業／事業期間：平成 25 年 1 月～3 月）は、

ものづくりにおける高度な技能をもった企業退職者、豊富な職務経験のある企業退職者、30 年以上業務に従事した経験のある者を「指導者」として養成し、日本におけるものづくり中小企業の現場従業員の教育、技術力維持・向上を支援することを目的とした補助事業です。

■産学官連携

川越市と東洋大学との連携会議

川越市と東洋大学は、平成 19 年に連携に関する基本協定書を締結し、人材育成や研究、イベント参加等を通じて連携してきました。また、平成 24 年からは「川越市と東洋大学との連携会議」を継続的に開催してきました。第 3 回会議（平成 25 年 7 月 10 日、於東洋大学川越校舎）には川越市より 16 名、本学より 19 名が参加、第 4 回会議（平成 26 年 2 月 26 日、於川越市立美術館）には川越市より 15 名、本学より 19 名が参加し、産学官連携促進に向けた各種取り組みを行う川越 2 学部（理工学部、総合情報学部）の教員が、川越市行政担当者へのプレゼンテーションを実施し、活発な議論を行いました。

10 年後の川越市制施行 100 周年に向け、インフラ整備、ハザードマップなどの観点から、快適で安心できる暮らしづくり、より魅力あるまちづくりに寄与できるよう、川越市との産学官連携に、より一層取り組んでまいります。

2. 事業の概要

(2) 東洋大学 ③社会貢献

大学は、教育と研究を本来の使命としていますが、大学の第3の使命として「社会貢献」が強調されるようになってきています。本学では、明治20（1887）年の創立から126年の伝統により培われた「社会教育・生涯学習」の精神に基づき、大学が持っている「知」を広く社会に還元するという社会貢献としての活動に、早くから様々な形で取り組んできました。「学校法人東洋大学行動規範」において「私たちは、常に地域社会への貢献や連携を考え、開かれた学校づくりを行い、社会貢献を教育機関の重要な役割の一つと考え、教育研究の成果を積極的に社会に還元します。」と謳っているとおり、今後も一層の充実を図っていきます。

■公開講座

本学では、生涯学習への取り組みとして春期と秋期にエクステンション講座、学術講演会、市民大学講座などの公開講座を実施しています。一般の方ももちろん、本学在学学生・卒業生、他大学生など、どなたでも講座に参加することができます。

東洋大学井上円了哲学塾 公開講座

東洋大学井上円了哲学塾で開講するリーダー哲学講義を広く一般の方にも公開するものです。

思想・政治・経済・産業・宗教・文化など多方面で活躍するリーダーをお招きしました。

■講師派遣

創立者井上円了の教育理念でもある「社会教育・生涯学習」の志を継承し、創立期に全国各地からいただいたご支援に対し感謝の心を込め、全国の人々の「生涯学習」支援を目的として講師派遣事業を行っています。

11学部44学科、大学院10研究科、さらに法科大学院を擁する東洋大学は、多様なテーマを用意し、幅広い専門性を持って、社会教育・生涯学習に貢献しています。

【総合的な学習の時間支援プログラム】

高等学校の『総合的な学習の時間』等の講演会へ本学の専任教員を派遣し、それぞれの専門分野を活かした講義を行います。
高等学校の生徒を対象としたプログラムです。

【生涯学習支援プログラム】

教育委員会、生涯学習・社会教育・社会福祉の各種団体および小中高等学校の教職員・PTA等で企画する講演会・研修会等へ、本学専任教員を派遣します。
社会人の方を対象としたプログラムです。

なお、本事業では、本学が講師の講演料・交通費・宿泊費を負担して実施しています。

■地域連携・社会貢献

東洋大学文化講演会

附属高校、併設校が所在する姫路市、牛久市、北区において、社会貢献活動の一環として本学の知および生涯学習の機会を広く社会へ提供する目的で東洋大学文化講演会を開催しました。

◆東洋大学文化講演会 in 牛久

日時：平成25年10月12日
場所：東洋大学附属牛久高校（茨城県牛久市）
講演：林 修氏（東進ハイスクール・東進衛星予備校講師）
「いつやるの？今でしょ！」
聴講者：約600名

◆東洋大学文化講演会 in 姫路

日時：平成25年10月19日
場所：姫路キャスパホール（兵庫県姫路市）
講演：竹村牧男（東洋大学学長・文学部東洋思想文化学科教授）
「井上円了の人と思想」
小島貴子（東洋大学理工学部生体医工学科准教授・グローバル・キャリア教育センター副センター長）
「グローバル・キャリアの描き方 今日とは未来の過去」
聴講者：約140名

◆東洋大学文化講演会 in 北区

日時：平成25年10月27日
場所：赤羽会館（東京都北区）
講演：ドナルド・キーン（東洋大学名誉博士（学術顧問））
「作家たちとの出会い」
森田明美（東洋大学社会学部長・社会学部社会福祉学科教授）
「東日本大震災における子どもへの被害から考える」
聴講者：約200名

■「ステップイヤー」

「ステップイヤー事業」とは、在学学生を対象に、休学制度を活用した自己実現型社会貢献活動を支援する東洋大学独自の制度です。

◆期待される効果

- ①大学の社会貢献として学生を派遣
- ②休学制度を前提とした臨地・実践教育
- ③自治体等と大学との確かな連携の促進
- ④実社会での学びを通じた学生の社会人基礎力の養成

2. 事業の概要

(2) 東洋大学 ③社会貢献

■社会貢献センターの設立

旧生涯学習センターに替わり、社会貢献センターを新たに設立しました。

前身である哲学館の創設直後より「余資なく、優暇なき者」のために『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。さらに創立者による全国巡講は、講師派遣事業や公開講座などへと引き継がれて現在に至っています。このように東洋大学は、社会貢献を建学の精神を具現するための柱の一つとしてきました。

125周年を経て、新しい歴史を歩み始めた本学は建学の精神の共有と継承を図ると同時に、哲学・国際化・キャリアに重点を置いた教育を行い、グローバル化する社会で活躍できる人財の育成を目指しています。優れた人財の育成こそが、大学教育の社会への第1の貢献です。同時に、多様な専門性を有する教員の研究成果を広く公開することが第2の貢献と言えます。そうした役割を基礎とし、さらに、従来の「生涯学習センター」が担ってきた役割を継承しつつ拡充し、大学が立地する地域および国際社会への貢献を広く含む社会貢献を使命として、「社会貢献センター」を設立しました。

これまで多くの皆さんに支えられ発展してきた本学の生涯学習機能に加えて、社会貢献に関わる本学の多様な情報を提供して参ります。

■地域連携・社会貢献

川越市との連携講座

平成25年5月11日から6月15日までの毎週土曜日に5回にわたり、東洋大学川越キャンパスにおいて、川越市と東洋大学との共催で連携講座を開講しました。

「自然界にみられるかたち～しくみ、多様性、アート～」をテーマに、本学理工学部機械工学科吉野隆准教授がコーディネーターを務め、『形の科学会』に所属する研究者がそれぞれの研究対象について一般の方向けに講義をし、自然界が創りだしたさまざまな「かたち」を楽しく学びました。

形の科学の対象は多岐にわたりますが、その中から、幾何学（球）、生物学（プランクトン）、物理学（結晶成長）、化学（光合成）、アート（紋様、デザ

イン）をテーマにして、「かたち」というキーワードをもとに、講義だけでなく、ワークショップも行いました。

埼玉県内の高校と教育研究で連携協定

生命科学部と食環境科学部は、農業後継者や地場産業を担うような人材の育成を図ることを目的とし、埼玉県内の農業関係の高等学校9校と平成25年12月16日に、教育研究の連携に関する協定を締結しました。

本連携では、特に農業教育分野の基盤となる生命科学に基づく農業分野への活用と、食の「安全」「安心」「食品開発」などの食環境における基盤的な分野を科学的に学ぶことを中心に事業展開いたします。

<調印した高等学校>

熊谷農業高等学校、杉戸農業高等学校、川越総合高等学校、秩父農工科学高等学校、羽生実業高等学校、児玉白楊高等学校、いずみ高等学校、鳩ヶ谷高等学校（以上県立）
筑波大付属坂戸高等学校（国立）

2. 事業の概要

(3) 東洋大学附属姫路高等学校



東洋大学附属姫路高等学校
校長 橋本 俊雄

生徒と教職員が共に成長し続け、
常に進化し続ける学校づくり

東洋大学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を基底に据え、「自立・友情・英知」の校訓のもと、次の3つの人間像を理想とし、その育成に取り組んでいます。

- 1 多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学(人生観・世界観)を持つ人間
- 2 先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫り、論理的・体系的に深く考えることのできる人間
- 3 社会の課題に自主的・主体的に取り組み、良き人間関係を築くことができる人間



〒671-2201 兵庫県姫路市書写 1699 番地
Tel. 079 (266) 2626 Fax. 079 (266) 4590
URL: <http://www.toyo.ac.jp/himeji/>

■教育活動

平成 25 年の創立 50 周年を節目とし、東洋大学の「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の 3 つの柱を踏まえた教育を、附属高校である本校も展開しており次の 50 年に向けての新しい挑戦を始めています。

平成 23 年度に新設したスーパー特進コースは、難関国公立大学現役合格を目指して、単に進学実績の向上だけではなく、大学入学後や社会人になってからも力が発揮できる人材の育成に鋭意取り組んでいます。

また、従来の特進コースも 1 クラスにしぼり、少人数授業等きめ細やかな教育を展開しています。

さらに、平成 24 年度からは生徒数の 7~8 割を占め、学力差の大きい総合進学コースの教育改革にも取り組んでいます。具体的には、習熟度別クラス編成を採用入れ、一人ひとりの学力に応じた授業が展開できるよう授業形態・授業内容の見直しを図りました。このような取り組みによって、さらなる学力アップやクラブ活動の充実など、文武両道の伝統の推進を一層加速させています。

■大学との連携の充実

恒例になりつつある 1 年生全員を対象とした「東洋大学見学会」が平成 25 年 6 月に実施され、附属高校生としての意識と大学への関心が高められました。また、本年度で 10 年目となった TV 会議システムを利用した大学教員による授業や学部・学科説明会が行われました。一般市民向けには本年で 4 回目となる「東洋大学文化講演会 in 姫路」が平成 25 年 10 月に実施され、当地域における東洋大学の存在感を一層高めることができました。平成 25 年 8 月には今年で 2 回目になるスーパー特進コース 2 年生の課題研

究旅行(2泊3日)を生命科学部において実施し、生徒にとって貴重な体験となりました。

■課外教育

3 年目を迎えた 1 年生スーパー特進・特進コース合同の学習合宿を平成 25 年 4 月に、またオーストラリアの姉妹校との交流を平成 25 年 10 月に実施しました。部活動においては、弓道部・柔道部が全国大会に、卓球部が近畿大会に出場するなど日々の鍛練を重ねて充実した部活動を展開しています。

■入試広報活動

校舎を新設し、教育内容の刷新と充実の成果が知られるようになり、外部からは「東洋大姫路は変わった」という声が日増しに大きくなってきています。学校改革にかける教職員の努力が着実に実りつつあります。大学進学についても早稲田、MARCH、関関同立などの難関私大に合格者を出しています。

■施設設備

東洋大学の総合学園計画に基づき、平成 24 年 8 月から着工した姫路高校創立 50 周年記念校舎(仮称)建設工事は、平成 25 年 7 月に完成した本館(第 1 期工事)の引渡しを受け、引き続き講堂兼体育館および図書・職員室棟の建築(第 2 期工事)が平成 26 年 10 月の竣工を目指して順調に工事が進行しています。

新築校舎の施設や設備の整備は勿論ですが、平成 26 年 4 月に開校する附属姫路中学校と共に、より一層、教育環境の充実を図っていきます。

2. 事業の概要

(4) 東洋大学附属牛久高等学校



東洋大学附属牛久高等学校
校長 遠藤 隆二

創立 50 周年を期に大きく羽ばたく
教育の展開

東洋大学の創立者井上円了博士の建学の精神「護国愛理・知徳兼全・独立自活・諸学の基礎は哲学にあり」を基本理念とし、深く考える力と本質に迫る健全な批判精神を培い、将来社会に貢献できる有意な人材の育成に努めています。創立 50 周年を期に「大きく羽ばたける」よう、「①学力を向上させ、生徒の進路希望を実現させる。②魅力ある教育活動を展開し、地域社会に貢献する。③人権尊重の精神を基に人間教育を充実させる。」の 3 点を方針とし、全教職員が力を合わせ、揺るぎない教育活動を展開しています。



〒300-1211 茨城県牛久市柏田町 1360-2
Tel. 029 (872) 0350 Fax. 029 (874) 1055
URL: <http://www.toyo.ac.jp/ushiku/>

■教育活動

【教育課程】「目指す学校像」と「育てたい生徒像」を設定し、その具現化に向けて進学コース、特進コース、スポーツコースのコース別教育課程を編成し、全体とのバランスをとりながら生徒の個性・能力等が効果的に伸長するよう、地域に根ざした教育活動を展開しています。

【校内研修】教員の指導力と学校の教育力が向上するよう、①文章指導・他校の実践例と指導のポイント ②論理エンジンの内容と実践 ③アドレド語学研修 ④推薦基準変更への対策 ⑤センター試験の分析 ⑥キャリア教育 ⑦校務分掌の総括等のテーマで研修会を実施し、講師を含め全教職員の意識改善と資質向上に努めています。

【学習指導】各教科・科目のポリシーと 3 年間の達成目標、及び各授業シラバスを提出する体制がほぼ整い、各授業の透明性が確保されました。公開授業、研究授業も行い、学校のオープン化はかなり進展しています。

【生徒指導】学校のきまり（生徒手帳）の見直しを行い、安全で規律ある学校生活を送れるように、交通安全教室、薬物乱用防止教室等を行いました。また、登下校時の立哨指導や月例会、ホームルーム等において、日常の生活指導についてきめ細かく指導しました。

【進路指導】進路指導計画に基づき、学校としての統一した進路指導を行う体制を整えることができました。例えば、「附属推薦の推薦基準の変更に伴う対策」や「キャリア教育」の提案などですが、それを徹底するための校内研修会において、全教員が確実に指導できるように進路部が講師となって具体的な指導内容・方法の資料等を配布して説明するなど、進路指導のシステム構築を進めています。

【国際理解】平成 25 年 8 月に豪州のアドレド市に 20 名、平成 26 年 3 月にオレンジ市に 13 名の生徒を派遣し、一人 1 家庭にホームステイをして英語研修及び現地校の正規の授業を体験し文化交流をしました。また、平成 25 年 4 月には台湾の高校生 25 名とオレンジ市のカノボラス高校生 5 名を本校生徒の家庭にホームステイで受け入れ、特別授業や部活動合同練習や文化交流等を行いました。文部科

学省からはスーパーグローバルハイスクール (SGH) アソシエイト校に指定されました。

【課外教育】世界ユース大会に 2 年の野村真一郎君（山岳競技）と大野晃祥君（陸上 100m）が出場し、野村君が A の部で準優勝、また志鎌秀昭先生が関東陸上選手権教員の部「男子走り幅跳び」で優勝する等の活躍がありました。国体出場者は陸上駅伝部 5、相撲部 5、山岳 1、硬式テニス 1、合計 12 名。茨城国体の強化選手に陸上部 1、ソフトテニス部 2 の合計 3 名が指名。茨城県新人大会では、相撲部が団体と個人で共に優勝、空手道部が男女共に個人で優勝、団体で準優勝、女子硬式テニス部、女子ソフトテニス部、女子バレー部がそれぞれ準優勝しています。

■大学との連携の充実

平成 25 年 5 月実施の 1 年生対象の白山キャンパスでの大学見学会は、早い時期に附属生と東洋大学を意識させ、将来の進路目標設定に寄与しています。「現代学生百人一首」「井上円了が志したものは」等の大学主催のコンテストに参加し、経済学部等の PC による事前問題演習等も実施しています。平成 25 年 9 月に実施された生命科学研究所主催の国際シンポジウム「Food and Science」に参加し、本校生徒 2 グループ 11 名が「Japan or Rice Nation」と「Japanese and the New Year」というテーマでプレゼンを行いました。また、PTA 各支部が行う「大学キャンパス見学会」に多くの保護者が参加して「将来自分の子供の学ぶ大学」を体験し、満足しています。

■施設設備

中学校設置計画が茨城県から承認され、中学校と高等学校の共通新校舎（1 号館南棟）の建設を始めました。また、中学校設置に伴う不足校地分を購入しました。今後、現校舎の取壊しと 1 号館北棟の建設等を予定しています。

2. 事業の概要

(5) 京北高等学校



京北高等学校
校長 石坂 康倫

建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」
に則って

本校は、東洋大学の創立者井上円了博士の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を教育理念として継承し、教育活動を展開して今年で116年目を迎えます。

「物事の本質を深く考え、自ら判断し行動し、人を愛し人から愛され、社会に貢献できる有為な人材の育成」に努めています。教員は、常に哲学する心を持って授業に臨み、生徒一人ひとりを大切に育てることを教育目標に掲げています。

国際社会の中で「たくましさ幅広い視野」を持った社会のリーダーとなり得る人材育成のために、教職員一致団結して教育活動に取り組んでいます。



〒115-0053 東京都北区赤羽台 1-7-12
Tel. 03(5948)9113 Fax. 03(5948)9117
URL: <http://www.toyo.ac.jp/keihoku-hs/index.html>

■教育活動

【新生京北を創造する‘Kプロジェクト’】

将来の進路そして個々人の能力や役割を見つける大切な高校時代、自然豊かな東洋大学赤羽台キャンパスに於いて、安心して自分探しに集中できる環境を整備し、その中で学習習慣の獲得・学習方法の会得を目指す教育を実践しています。現在の京北の教育プログラムは、生徒たちの可能性を伸ばすための教育「Kプロジェクト5」を着実にを行っています。

Project 1 グローバル社会に適応した教育の実施
英語だけに偏らない、総合的学力を背景としたコミュニケーション能力の育成を目指しています。「国際力」の原点は日本文化を発信できる能力と位置づけ、語学力プラス一般常識、そして実技科目や芸術にも真摯に向き合わせ感性溢れる学習を心がけています。

Project 2 大学進学実績の躍進
難関大学への進路実現を可能にする新しい教育システムで、「授業・講習・補習」を合わせると年間学習時間は1,000時間超となります。またチューター制を取り入れたWeb学習は、生徒一人ひとりがIDとパスワードを持ち、学校でも自宅でもいつでも自由に勉強できる画期的な学習システムです。授業の予習・復習に連動しているだけでなく、大学受験の予備校講座や英検対策講座も学習できます。

Project 3 高大連携の教育
大学生活の先取りを体感できる「学部訪問」「まなびライブ」、そして留学生との交流プログラム「Let's Chat」などを行事化しています。東洋大学の総合ス

ポーツセンターを利用した部活も好評で、50mの温水プールは高校では味わえない醍醐味があります。

Project 4 キャリア教育の体系的実施
自分力・社会力・人間力の育成を土台として、「人間関係形成能力」「意思決定能力」「情報活用能力」「将来設計能力」の4能力の獲得を目指しています。

Project 5 文武両道教育の実施
全国大会常連の部活動から仲間との関わりの中で社会力を育む楽しい部活動まで、多種多様な部活動を配置しています。ボランティアの芽も育てています。部活動では、バスケットボール部がインターハイ優勝、剣道部が東京都春季剣道大会で優勝しました。

■安心・安全な学校への取り組み

教育内容はもちろんですが、生徒や保護者にとって一番大切なことは安心して学校に通えることだと確信しています。人と人との絆を大切にしたい温かみのある教育環境、そして東日本大震災の教訓を生かしての危機管理体制など、あらゆる意味で「安全な学校」作りに取り組んでいます。

■進路の状況

平成25年度の卒業生は104名です。現役の大学合格者数は、東北大学など国公立大学4、早稲田4、慶應2、東京理科2、立教2、明治4、中央6、法政4と多くの合格者数を出しています。因みに東洋大学には22名、日本大学には8名が合格しています。

2. 事業の概要

(6) 京北中学校



京北中学校
校長 石坂 康倫

建学の精神を今に引き継ぎ、社会の発展に
寄与する学校づくり

法人合併に伴い、学校法人東洋大学の設置校となった本校は、赤羽台に教育の場を移し、新しい学校づくりをはじめました。

入試基準の見直しにより、これまでよりも高い学力をもつ生徒を受け入れ、中高一貫特進コースを設置しました。新しい京北中学校のスタートでもあります。教育活動全般の見直しを進めるなかで、京北中学校の教育の質を向上させ、生徒達の成長に資する学校にしていきます。

そして、平成 27 年度には文京区の地に本移転し、理想的な校舎と新しい環境の下に、男女共学普通科の中高一貫教育校として生まれ変わります。



〒115-0053 東京都北区赤羽台 1-7-12
Tel. 03(5948)9112 Fax. 03(5948)9116
URL:<http://www.toyo.ac.jp/keihoku-jh/index.html>

■教育活動

【学習指導】 国語の授業を「文法」と「読解」の二分野に分け、それぞれ授業と考査を行うなど、学習効率を高めるため授業構成を変更しました。また、前年に続き補習講習システム「ASP (アフタースクールプログラム)」の整備をはかりました。これは基礎学力の定着が不十分な生徒のフォローアップをはかるとともに、学習に取り組む姿勢を育てるのに有効でした。特進コース一期生の中には国公立大学や難関私立大学を目指せるほどの学力向上が見られました。高校との接続を上手にはかり、実のある 6 カ年一貫教育の構築をはかっていきます。平成 27 年度からは特進クラスとしての募集はせずに、学力別クラス編成で一人一人の学力向上をはかります。

【進路指導】 進学指導検討会を実施し、現状把握ができました。模試の結果を分析し、今後の指導計画に役立てていきます。今後も継続して実施していきます。

【生徒指導】 昨年度に続き、他者との関係性のなかで、自尊感情を育てることを目標に取り組みました。PA (プロジェクトアドベンチャー) プログラムを導入し、課題解決を通して人間関係の向上を目指しました。このほかにも、地域清掃活動への参加など、社会のなかでの自分の果たすべき役割を自覚する活動に取り組みました。更に、カウンセラーを一人配置し、心のケアに力を注いでいます。今後も、「問題行動がおきてからの対応」ではなく、「予防的な観点からの指導」に取り組んでいきます。

【課外活動】 運動会や京北祭 (文化祭) が充実してきました。次年度には、京北祭を二日開催とします。

また、部活動では、バスケットボール部や剣道部が活発に活動しています。

【学校安全対策】 平成 25 年 6 月に実施している「防災の日」の活動を充実させました。今年度は、防災ビデオを見ながらの学習、赤羽消防署の指導の下、D 級簡易ポンプ・消火器を使用しての消火訓練、煙が充満した部屋からの脱出訓練を行いました。また、起震車による地震模擬体験を行い、更に中学 3 年生が AED を使った救急救命訓練を行いました。

【異文化体験旅行】 平成 25 年 7・8 月の京北三校合同企画「異文化体験旅行 (オーストラリア)」は希望人数が少なかつたために実施することができませんでした。次年度には、「ひと家庭にひとりステイ」という方針の下、異文化理解のためのプログラムに取り組み、是非とも実施したいと考えています。

■大学との連携の充実

中学校 3 学年では、今年度で 13 年目となる「川越キャンパス訪問」を実施しました。3 グループに分かれ、それぞれ実験室を訪ねました。そのことで、理科の学習を頑張る生徒が多数でできました。また、6 月には「板倉キャンパス訪問」も実施しました。

■施設設備

赤羽台校地 3 号館は、日当たりも良く、緑深い落ち着いた環境にあります。生徒・保護者からも好評を得ています。

2. 事業の概要

(7) 京北学園白山高等学校



京北学園白山高等学校
校長 石坂 康倫

21世紀の教育は白山から

明治の哲学者で東洋大学の創設者でもある井上円了によって明治32(1899)年に京北中学校が創設され、明治41(1908)年に京北実業学校が創立されました。京北実業学校は京北商業学校を経てさらに21世紀にふさわしい新しい教育を目指して平成14(2002)年京北学園白山高等学校と校名を変更し、「21世紀の教育は白山から」と新しい教育に挑戦し続けています。さらに平成23(2011)年4月には学校法人東洋大学と合併して、東洋大学で中核となって活躍できる人材の育成を心掛けています。



〒115-0053 東京都北区赤羽台 1-7-12
Tel. 03(5948)9111 Fax. 03(5948)9115
URL:http://www.toyo.ac.jp/hakusan-hs/index_j.html

■教育活動

【探究型学習 プロジェクト・ベース学習 1年】

生徒が積極的に参加できる授業の構築を目指した新しい教育の一つで、アメリカのチャータースクールで実施されている学習方法を取り入れています。自らテーマとゴールを定め、その追究のプロセスを体験学習や問題解決学習によって構成し、プレゼンするなど、生徒の意欲を高める授業を進めています。

【課題研究 2・3年】

1年次のプロジェクト・ベース学習の発展として、2、3年次に課題研究に取り組んでいます。1年生で学んだレポートの書き方やインターネットを活用した調査、図書館での資料の調達方法などについての学習をさらに発展させていきます。商業科はもちろん、国語科・地歴科・英語科など各分野からひとつの課題に対してアプローチをし、総合的な問題解決能力を育成しています。

【情報教育】

情報社会のなかで起こる社会問題と可能性を踏まえ、著作権や知的所有権、プライバシー保護、セキュリティ管理など社会的なルールの在り方や動向について学びます。また私たちの社会の在り方や倫理的問題も研究しています。最新のパソコン教室があり、充実した環境の中でスキルを高めています。

【表現教育】

表現教育では、授業を通して教師も生徒も自分らしい持ち味が出せるよう、一方的ではなく、生徒の「今」と教師の「今」が絡み合う人間関係の中で、自ら考え、表現する能力を養っています。

【資格取得】

簿記検定・情報処理検定・英語検定・漢字検定・数学検定などの検定にチャレンジしています。毎年各教科・各学年で目標を定め、合格に向けて取り組んでいます。

【土曜授業とキャリア教育】

土曜日は、「一般授業」の他に、キャリアアップのための進路ガイダンス、進路講演会、実力テストなど「特別授業」も行っています。毎年、四年制大学に6~7割の生徒が進学しています。今年度は、東洋大学に6名の合格者を出すことができました。

【朝学習】

1年次から3年次まで国語・数学・英語の3教科で朝学習を行っています。また、1年生から、国語・社会・国語において増単で7時間授業を実施し、更なる学力向上を図っています。

■大学との連携の充実

2年生で白山キャンパスでの「学びライブ」に参加しています。3年生の3学期には東洋大学教授による講演会を開催しました。また、「井上円了作文コンクール」や生命科学部主催の「私が考える食育作文コンテスト」に応募しています。

【Let's Chat!】

土曜日の午後、東洋大学で学ぶ留学生と本校の生徒が交流します。授業とは違ってテキストのない、フリーの英会話です。

2. 事業の概要

(8) 京北幼稚園



京北幼稚園
園長 清澤 文彌太

成長段階に適応した遊びと自主性を育成していくことを目指します。

幼児期には、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の領域をバランスよく身に付け伸ばすことが求められています。人間形成の基礎をつくる最も貴重な幼時期に、同年齢の幼児が成長段階に適応した遊びを中心とした生活を通して、身の周りの物事に興味や関心を示し、自分でやってみようとする行動により自主性を育成していくことや、集団での諸活動の中で個々がさまざまな体験をしながら社会性を身につけ、思考力や表現力を会得し、豊かな心を育むための知・徳・体のバランスのとれた成長を促す保育を目指しています。



〒115-0053 東京都文京区本駒込 2-13-5
Tel. 03 (3941) 7090 Fax. 03 (3941) 7213
URL: http://www.toyo.ac.jp/keihoku-kdg/index_j.html

■ 保育活動

【保育の展開】

本園がめざす保育を根底に、自分のしたいことを行う自由保育とクラスでまとまって行う一斉保育の組合せによる保育を続けています。各クラスとも成長段階にふさわしい年間・学期・月間・週間のカリキュラム（指導目標）を設定して、少しずつでも向上することを目標に取り組みました。

平成 25 年度は、各年齢 1 クラス編成で、年少は 35 名、年中は 35 名、年長は 35 名、合計 105 名が在籍して、3 月には年長 35 名が卒園しました。

教員の配属は、例年通り各クラス主・副担任の 2 名で、保育準備から保育活動の分担、毎日の反省など主・副担任間で十分な話し合いを行なった上で保育の展開をしています。更に今年度は、クラス担任としてではなくフリーの立場で各クラスの支援をする教員を 1 名配置しました。

園全般の教務および各クラス担任へのアドバイスや指導は主任が担当し、園の運営、施設管理などは、園長、主任を中心に大学法人と相談、助言を受けて実施しました。また、事務処理など法人との連絡を密にするよう総務課から人材を派遣してもらい、教員の負担軽減ができました。

【大学との連携の充実】

昨年度に引き続き、ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻の 3 年生に対して、幼稚園の様子と保育実習に向けての注意事項の講義を主任が行いました。

例年通りライフデザイン学部の学生が保育実習を行いました。

また、学生達が制作した人形劇を園で上演し学生と園児の交流をはかりました。

【研修の充実】

教員の研修活動への取り組みは、園児の夏休み中に教員各自の関心のある研修に参加をし、報告書の提出を義務づけています。また、第 3 保育期中には、文京区私立幼稚園連合会主催の研修会に教員全員で参加をし、今年度は参加者がグループに分かれて各幼稚園の情報を交換しました。これらを通して常に保育内容や技術のレベルアップを心掛けており、全力投球の保育に対して保護者の方々から厚い信頼を得ています。

■ 園の運営

学校法人東洋大学の傘下に入り、管理運営に関しては、法人の担当部署と綿密な連絡を取り幼稚園の運営に遅滞がないように努めました。

保育に関しては、経営母体が変わっても教員の経験と保護者の要望を生かした保育を展開しています。

■ 施設設備

設備、器具の老朽化が著しい物については法人に要請して更新や新設を行いました。

具体的には、1 階の園児用トイレの改修、屋上の手すりの改修、ホールにビデオプロジェクターの設置、園児用各種備品や遊具の更新などを行いました。

2. 事業の概要

(9) 学校法人東洋大学

■格付の取得

学校法人東洋大学は、平成26年1月15日に、株式会社日本格付研究所(JCR)より、6年間連続で長期発行体格付の「AA」(ダブルAフラット)の格付を取得し、また格付の見通しは、「安定的」とされました。

「AA」は、21段階ある格付の上から3番目であり、債務履行の確実性が非常に高いとされているもので、格付事由として、①堅調な志願動向から私学有数の志願者数の確保による学納金収入の安定性が高い、②多数の施設整備計画が実施されているが、キャッシュフローと運用可能資産でおおむね対応可能なことによる高い財産健全性の維持、③建学の精神や社会ニーズを基に3つの柱を定め、具体的な目標や施策を明示した上で、法人・教学が一体で推進している、などが挙げられています。

「AA」の評価は、学校法人の信用力、健全な財務体質及び大学の教育・研究・社会貢献への取り組みが評価されたもの、と考えておりますが、本法人は、この格付に安住することなく、本学のブランド力を高めるため、今後とも、良質な教育の提供、先進的かつ高度な研究の推進、知的成果の社会への還元を通じて、大学の社会的責任を果たしていきます。

■自治体との連携

文京区との協定

平成26年3月18日に、文京シビックセンターにて、文京区と「災害時における相互協力に関する協定」を締結し、調印式が行われました。

調印式には、文京区からは成澤廣修区長、本学からは福川伸次理事長が出席しました。

この協定は、大学施設の一部を避難施設として活用し、大学の教職員や学生ボランティアがその運営に携わるなど、施設・マンパワーの両面から災害時に備える内容です。

北区との協定による報告会

北区と東洋大学による包括協定による「高齢者にやさしいまちづくりに関するモデル調査・研究」報告会が開催されました。

開会冒頭、花川與惣太北区長に本学大熊廣一常務理事より、報告書の贈呈をいたしました。

研究報告では、座長の本学ライフデザイン学部高

橋儀平教授をはじめ、プロジェクトに参加した各学部教員大学院生から高齢化の進む北区に対して実態や各地域の特徴を詳細に報告、北区の高齢者の現状を浮き彫りにしました。

その報告を受けて、高齢者ニーズ、「見守り」の重要性などをやさしいまちづくりに必要な課題を通じて、北区に対し、これからの高齢者にやさしいまちづくりについて、具体的な提言が行われました。

■教育研究環境の整備・充実

白山第2キャンパス機能の白山キャンパスへの移行により、白山文系6学部体制になりました。

白山図書館拡張

白山第2キャンパス図書館、図書資料室の白山図書館への統合に伴い、白山図書館を拡張しました。6学部の学生が通うため、幅広いジャンルの資料を収集しています。「ラーニング・コモンズ」が誕生し、授業以外の時間でも、学生が共同して主体的に学習できる環境です。グループ学習室も新たに増設。また、2号館地下1階にはセミナー室がオープンしました。

PC教室の整備

情報関連サービスのワンストップサービス化に向け、白山キャンパスでは各建物に点在していたPC教室とヘルプデスクを3号館に集約、「情報棟」としてリニューアルしました。その際、実習、ゼミ、講義、アクティブラーニングなどの授業形態と収容規模を想定した教室設備を導入し、利便性が向上しました。

朝霞体育館の建設

<朝霞体育館概要>

■敷地面積	: 68,817.46 m ²
■建築面積	: 3,068.90 m ²
■延べ面積	: 3,188.22 m ²
■構造	: 鉄筋コンクリート造(アリーナ棟) 鉄骨造(複合棟)

2. 事業の概要

(9) 学校法人東洋大学

■エコキャンパスへの取り組み

平成 23 年 7 月に表明した「学校法人東洋大学環境憲章」に基づき全学で始められた「エコキャンパスプロジェクト」。東洋大学オリジナルの「エコポイント制度」を活用しながら、学生・教職員の環境活動をサポートする取り組みです。

白山キャンパスでの取り組み

エコキャンパス推進活動の一環として、サツマイモの枝葉を利用したキャンパス緑化に取り組みました。

平成 25 年 5 月 18 日午前、午後と 2 つのイベントが白山キャンパスで行いました。

午前に行った「グリーンポテト」は、土と肥料の入ったバッグにさつまいもの苗を植えることで、都心の白山キャンパスで緑化活動を行う企画です。エコキャンパス推進委員会や学生ボランティア等の有志 13 名が集まり、培地バッグを利用したさつまいも栽培システム「グリーンポテト・ライト(R)」を 18 台導入しました。

午後に行った「春のクリーン作戦」は今年で 3 回目の開催となります。学生・教職員等 73 名が参加し、白山キャンパス周辺から本駒込駅や千石駅付近、白山第 2 キャンパスまでの広範囲に及ぶ 10 ルートを約 1 時間半かけて清掃を行いました。イスや手押し車といった大きなゴミも回収することができ、回収したゴミは分別の後に適切に処理しました。

川越キャンパスでの取り組み

平成 25 年 8 月 4 日、川越市環境プラザ「つばさ館」において「エコプロダクツ川越 2013」が開催され、約 800 名の入場者でにぎわいました。

東洋大学は、エコキャンパスプロジェクト（川越）として次の内容を出展しました。

- ◆エコキャンパスプロジェクト（川越）を実施している総合情報学部環境コミュニケーションゼミの紹介パネル
- ◆東洋大学エコポイント制度の概要パネル
- ◆グリーンカーテンプロジェクトの実物大写真と朝獲りゴーヤの展示・配布
- ◆笠幡水田再生プロジェクトの実物大写真
- ◆これらの場所で撮影した動植物の写真展示
- ◆川越キャンパスで使用している「エコツアーガイド」の配布

川越キャンパスでは、総合情報学部環境コミュニケーションゼミが中心となって、関係組織と協力しながら活動を推進しています。

■地域交流

児童とスポーツ交流会

平成 25 年 6 月 26 日、総合スポーツセンターにおいて、板橋区立志村第三小学校の 1～6 年生の児童 101 名とスポーツ交流会を実施しました。

1～3 年生は、本学アスリートたちが練習に励んでいる体育施設を見学し、4～6 年生は、実際に相撲部、柔道部、剣道部の大学生から基本中の基本から指導を受け、技をかけるなどの体験をしました。児童からは好評を受け、地域と東洋大学の有意義な交流会となりました。

2. 事業の概要

(9) 学校法人東洋大学

■ 主な施設設備の取得または処分およびその進捗状況

取得施設

建物名等	面積(m ²)	概要	用途
川越キャンパス コミュニティーセンター建築	延床面積 1,827.60	鉄筋コンクリート造 地上3階建	サークル部室、音楽練習室、 ウェイトトレーニング室、多目的室、 更衣室、シャワー室
朝霞キャンパス 体育館建築	延床面積 3,188.22	アリーナ棟：鉄筋コンクリート造 複合棟：鉄骨造 地上2階建	アリーナ、実習室、多目的室、 トレーニングルーム、更衣室
附属姫路高等学校 本館（第1校舎）建築	延床面積 9,777.40	鉄筋コンクリート造 地上5階建	教室、理科室、技術室、物理室、化学室、 生物室、調理室、被服室、進路指導室、 事務室、校長室、応接室、会議室
附属牛久高等学校 土地取得	登記面積 3,249.32	茨城県牛久市柏田町宮台下1366 他	中学校設置に伴う茨城県の「私立学校設置 認可の基準等に関する要項」に定められて いる校地（運動場含む）の基準面積に対し 不足する校地として取得

処分施設

建物名等	面積(m ²)	概要	摘要
白山第2キャンパス A棟 B棟 C棟 D棟 E棟 部室・売店棟	延床面積合計 18,803.67	A棟：鉄筋コンクリート造 陸屋根 地上4階建 延床面積 4,202.64m ² B棟：鉄骨造 地上3階建 延床面積 6,624.36m ² C棟：鉄筋コンクリート造 陸屋根 地上4階建 延床面積 6,468.49m ² D棟：鉄筋コンクリート造 陸屋根 地上3階建 延床面積 480.87m ² E棟：鉄筋コンクリート造 コンクリート板葺 地上2階建 延床面積 425.62m ² 部室・売店棟：鉄骨造 地上2階建 延床面積 601.69m ²	平成25年 9月 解体
朝霞キャンパス 学校用地	登記面積合計 27,006.00	埼玉県朝霞市大字溝沼五反田1340-1 (10,915.00m ²) 埼玉県朝霞市大字溝沼下田1237-1 (15,112.00m ²) 埼玉県朝霞市大字溝沼下田1280-2 (979.00m ²)	平成25年12月 売却
朝霞キャンパス 総合体育館	延床面積 7,279.24	鉄筋・鉄骨コンクリート造 他 地上3階建	上記売却用地上の建物
川越キャンパス 学生部室(体連) 学生部室(文連) 学生サークル部室	延床面積合計 1,170.54	学生部室(体連)：コンクリートブロック造 亜鉛メッキ鋼板葺 地上2階建 延床面積 559.50m ² 学生部室(文連)：コンクリートブロック・鉄骨造 亜鉛メッキ鋼板葺 地上2階建 延床面積 408.42m ² 学生サークル部室：コンクリートブロック造 陸屋根 地上2階建 延床面積 202.62m ²	平成26年 3月 解体
附属姫路高等学校 第1校舎	延床面積 7,030.35	鉄筋コンクリート造 陸屋根 地上5階・地下1階建	平成25年12月 解体

進行中施設

建物名等	地名地番	建築面積(m ²)	計画概要	工期(予定)
附属姫路高等学校 図書・職員室棟、50周年記念ホール 建築	兵庫県姫路市書写 1699	1,508.04	図書・職員室棟 地上2階建 1,330.14m ² 50周年記念ホール 地上2階建 927.66m ² 延床面積合計 2,257.80m ²	平成24年7月～平成26年10月
附属牛久中学校・高等学校校舎建築	茨城県牛久市柏田町 1360-2	3,382.68	校舎 地上4階建 延床面積 11,580.49m ²	平成25年11月～平成28年5月
京北中学校・高等学校校舎建築	東京都文京区白山 2-36-5	5,196.06	校舎 地上4階・地下2階建 延床面積 19,372.46m ²	平成25年4月～平成27年2月

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況

【資産の状況】

平成25年度末の資産総額は、2,088億200万円で前年度末に比べ18億5,600万円減少しました。有形固定資産については、附属牛久中学校設置に伴う不足校地を取得したことや、川越キャンパスにコミュニティーセンターを、朝霞キャンパスに体育館を新たに建設したこと、附属姫路高等学校に本館（第1校舎）を建て替えたこと、教育・研究のための機器備品や図書を購入および車両の購入などにより増加しましたが、朝霞キャンパスでの校地一部売却や総合体育館の売却、白山第2キャンパスの校舎除却、附属姫路高等学校の校舎除却により減少となりました。その他の固定資産は、附属姫路高等学校で本館（第1校舎）等建築に伴い校舎建設準備引当特定預金を5億円、建設準備引当特定資産を5億5,500万円、それぞれ取り崩しましたが、大学で減価償却引当特定資産として18億円を、将来計画施設設備引当特定資産として40億円を、第3号基本金（奨学基金）引当特定資産に20億円をそれぞれ繰り入れ、また有価証券を18億円新規に購入したことなどにより、合計で77億4,700万円増加して、462億3,700万円となりました。流動資産は現金預金が62億8,500万円減少したことなどにより243億9,300万円となりました。

【負債の状況】

負債総額は183億700万円で前年度末に比べ23億8,500万円減少しました。流動負債は前年度、建物建築や既存校舎改修工事、機器備品取得などで33億9,700万円ありました未払金が23億800万円減少したこと、短期借入金

が0円になったこと、前受金が2億2,400万円増加したことなどにより、合計で22億800万円減少し95億7,700万円となりました。一方、固定負債は長期借入金を繰上償還したことで0円に、退職給与引当金が1億5,100万円減少したことなどにより、87億3,000万円となりました。

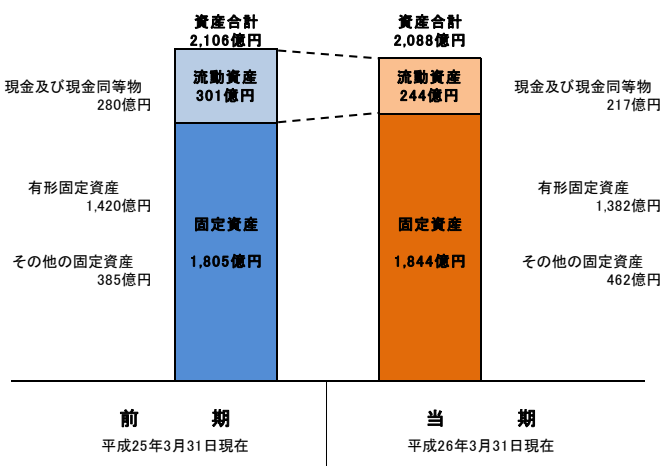
【基本金の状況】

基本金は49億7,200万円増加して2,286億300万円となりました。このうち、第1号基本金は牛久校地の取得、朝霞キャンパスの土地・建物売却による18億円の取り崩し、建物建築や機器備品などの施設設備充実と建物の解体に伴う除却や借入金の完済などにより、合計で5億2,800万円減少して2,028億円となり、第2号基本金は大学において5億円を第1号基本金に振り替えた一方、将来の校舎等施設・設備の整備充実準備として40億円を組み入れたことにより129億6,000万円となりました。さらに第3号基本金は基金の運用果実を新たな奨学金の資金とするため20億円増加し108億1,000万円となりました。

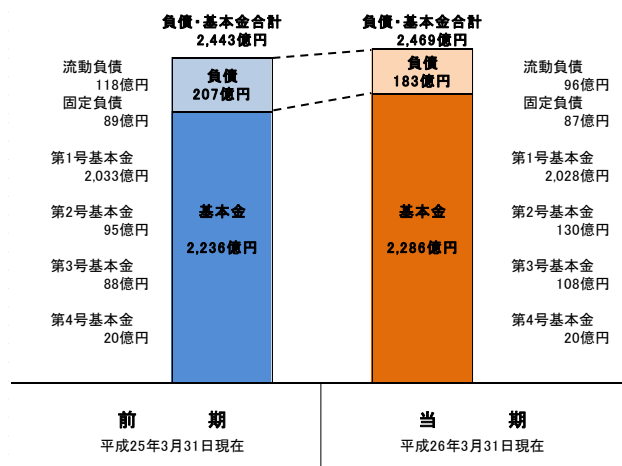
【消費収支差額の状況】

資産総額2,088億200万円に対して、負債総額が183億700万円に、基本金が2,286億300万円であったため、消費収支差額はマイナス381億800万円となりました。なお、今年度末における減価償却累計額の合計は645億4,800万円、基本金の未組入額は2億4,000万円となり、純資産としては5億2,800万円増加し、1,904億9,500万円となりました。

資産の状況



負債・基本金の状況



3. 財務の概要

(1) 決算の概要

②収支計算書の状況

【帰属収入の状況】

当年度の帰属収入は390億9,000万円で、主な項目としては、学生生徒等納付金が前年度より4億3,400万円減少し309億9,200万円で、入学検定料などの手数料が志願者数の減少に伴い前年度より2億6,100万円減少し20億6,600万円で、特別寄付金や一般寄付金、現物寄付金などの寄付金は前年度より6億1,700万円減少し2億9,300万円で、補助金は3億4,300万円増加し40億8,400万円になりました。

【消費支出の状況】

当年度の消費支出は385億6,100万円で、主な項目としては、人件費が専任教職員の採用増加や退職者の増加に伴い前年度より2億9,500万円増加し186億9,900万円で、

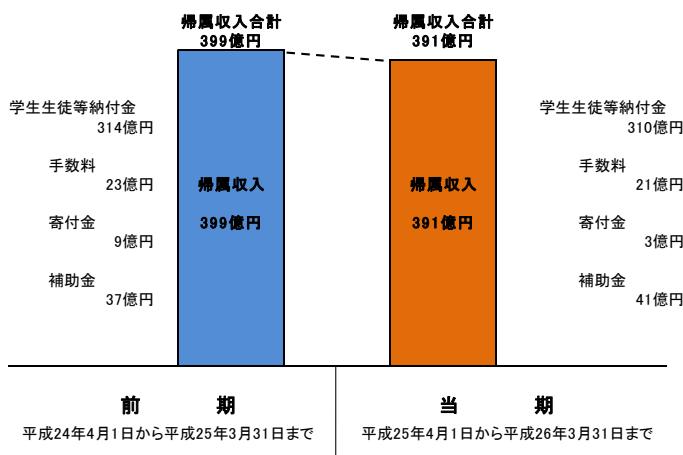
教育研究経費は前年度より3億500万円増加し121億1,800万円で、管理経費は2億7,600万円減少し16億400万円となっています。

なお、消費支出全体のうち45億7,700万円は減価償却によるものです。

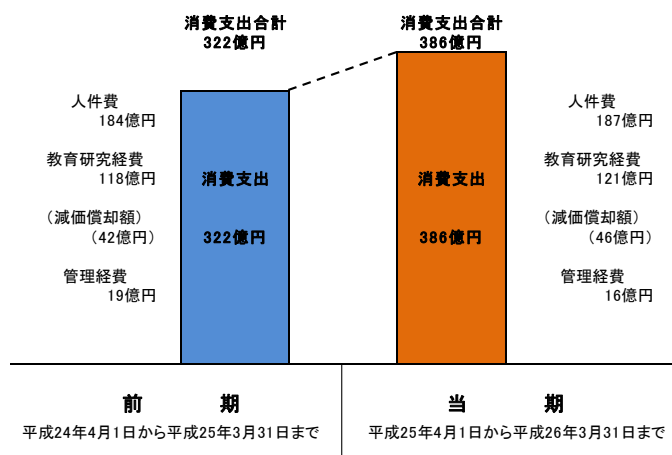
【消費収入、消費収支差額の状況】

帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入の部の合計は322億9,300万円となり、消費支出が消費収入を上回った結果、62億6,800万円の消費支出超過となり、また18億2,500万円基本金を取り崩したことに伴い、累積の翌年度繰越消費収支差額はマイナス381億800万円（消費支出超過）となりました。

帰属収入の状況



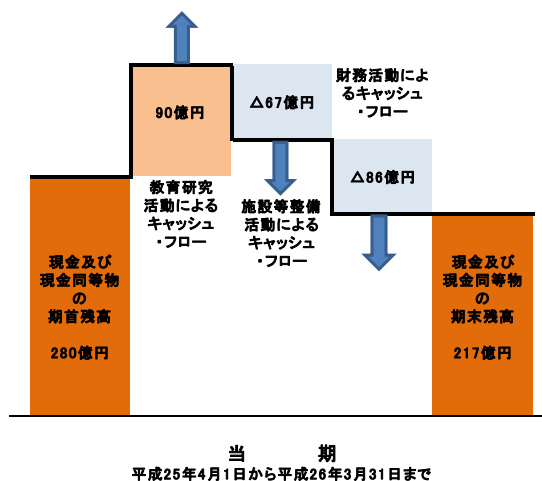
消費支出の状況



③キャッシュ・フロー計算書の概要

教育研究活動によるキャッシュ・フローは、学生生徒納付金や手数料、寄付金が減少しましたが、補助金や資産売却収入、その他の収入が増加したこと、また人件費が増加した一方、管理経費が減少したことなどにより90億円のプラスとなりました。施設等整備活動によるキャッシュ・フローは、事業計画の推進により67億円のマイナス、また財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金完済、特定資産への積み増し等で86億円のマイナスとなりました。この結果、経常収支のキャッシュで施設等整備、財務のキャッシュを賅ったほか、現金等の期末残高も特定資産へ積み上げたことにより、現金及び現金同等物の期末残高として200億円以上を維持しております。

キャッシュ・フロー計算書の概要



3. 財務の概要

(2) 経年比較

① 貸借対照表

(単位:百万円)

	平成21年度末 (2009年度末)	平成22年度末 (2010年度末)	平成23年度末 (2011年度末)	平成24年度末 (2012年度末)	本年度末
固定資産	153,967	162,810	171,649	180,539	184,409
流動資産	30,042	27,900	29,000	30,119	24,393
資産の部合計	184,009	190,710	200,649	210,658	208,802
固定負債	10,577	9,872	9,080	8,907	8,730
流動負債	10,497	9,457	9,298	11,785	9,577
負債の部合計	21,074	19,329	18,378	20,692	18,307
基本金の部合計	183,805	200,987	212,959	223,631	228,603
消費収支差額の部合計	△ 20,870	△ 29,606	△ 30,688	△ 33,665	△ 38,108
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	184,009	190,710	200,649	210,658	208,802

② 収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	本年度
学生生徒等納付金収入	30,277	30,555	31,287	31,426	30,992
手数料収入	2,374	2,236	2,121	2,327	2,066
寄付金収入	133	255	1,932	850	254
補助金収入	2,975	3,427	3,767	3,741	4,084
資産運用収入	500	434	425	415	433
資産売却収入			577	2	1,800
事業収入	242	277	288	282	381
雑収入	741	861	879	820	762
前受金収入	7,321	7,334	7,252	7,560	7,784
その他の収入	5,494	6,561	7,824	5,027	13,939
資金収入調整勘定	△ 8,793	△ 8,351	△ 8,442	△ 8,363	△ 8,684
前年度繰越支払資金	28,508	28,637	26,185	27,280	28,005
収入の部合計	69,773	72,225	74,095	71,367	81,816

支出の部	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	本年度
人件費支出	16,831	17,496	18,400	18,491	18,850
教育研究経費支出	6,851	6,687	7,129	7,752	7,656
管理経費支出	1,707	1,523	1,543	1,761	1,476
借入金等利息支出	88	62	28	6	3
借入金等返済支出	720	879	513	113	102
施設関係支出	4,545	9,492	8,333	7,824	6,596
設備関係支出	2,046	1,804	1,673	2,294	1,894
資産運用支出	7,440	6,738	8,376	6,282	19,810
その他の支出	3,215	2,889	2,314	2,468	5,322
資金支出調整勘定	△ 2,307	△ 1,531	△ 1,494	△ 3,629	△ 1,613
次年度繰越支払資金	28,637	26,185	27,280	28,005	21,720
支出の部合計	69,773	72,225	74,095	71,367	81,816

3. 財務の概要

(2) 経年比較

イ) 消費収支計算書

(単位:百万円)

消費収入の部	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	本年度
学生生徒等納付金	30,277	30,555	31,287	31,426	30,992
手数料	2,374	2,236	2,121	2,327	2,066
寄付金	171	295	2,891	910	293
補助金	2,975	3,427	3,767	3,741	4,084
資産運用収入	500	434	425	415	433
資産売却差額	6		525	3	72
事業収入	242	277	288	282	381
雑収入	754	862	880	840	769
帰属収入合計	37,299	38,084	42,184	39,944	39,090
基本金組入額合計	△ 9,985	△ 17,182	△ 11,972	△ 10,672	△ 6,797
消費収入の部合計	27,315	20,902	30,212	29,272	32,293

消費支出の部	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	本年度
人件費	16,621	17,314	17,933	18,404	18,699
教育研究経費	10,501	10,408	11,205	11,813	12,118
管理経費	1,768	1,598	1,836	1,880	1,604
借入金等利息	88	62	28	6	3
資産処分差額	504	255	292	145	6,134
徴収不能額	-	-	-	-	3
消費支出の部合計	29,482	29,638	31,294	32,249	38,561
当年度消費収支超過額	△ 2,167	△ 8,736	△ 1,082	△ 2,977	△ 6,268
前年度繰越消費収支超過額	△ 18,910	△ 20,870	△ 29,606	△ 30,688	△ 33,665
基本金取崩額	207	-	-	-	1,825
翌年度繰越消費収支超過額	△ 20,870	△ 29,606	△ 30,688	△ 33,665	△ 38,108

(3) 主な財務比率比較

(単位:%)

比率名	算式	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	本年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	21.0	22.2	25.8	19.3	1.4
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	107.9	141.8	103.6	110.2	119.4
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	81.2	80.2	74.2	78.7	79.3
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	44.6	45.5	42.5	46.1	47.8
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	28.2	27.3	26.6	29.6	31.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.7	4.2	4.4	4.7	4.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	286.2	295.0	311.9	255.6	254.7
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金※1}}$	12.9	11.3	10.1	10.9	9.6
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金※2}}$	88.5	89.9	90.8	90.2	91.2
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.6	99.5	99.8	99.0	99.9

※1 自己資金=基本金+消費収支差額

※2 総資金=負債+基本金+消費収支差額

3. 財務の概要

(4) その他

①有価証券の状況

満期保有目的の債券で時価があるもの

(単位:千円)

	種類	簿価	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	9,740,640	10,277,591	536,951
	外国債	230,779	240,419	9,639
	外国債(仕組債)	0	0	0
	計	9,971,419	10,518,010	546,591
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	611,910	604,020	△7,890
	外国債	1,120,339	1,075,010	△45,329
	外国債(仕組債)	1,000,000	971,200	△28,800
	計	2,732,249	2,650,230	△82,019
合計		12,703,668	13,168,240	464,571

その他の有価証券で時価があるもの

(単位:千円)

	種類	簿価	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	公社債投信	158,187	158,244	57
	上場投資信託	1,630,030	1,872,502	242,472
	投資信託(公募)	1,082,670	1,202,673	120,003
	投資信託(私募)	5,314,617	5,451,050	136,433
	金銭信託	300,000	304,316	4,316
	計	8,485,503	8,988,785	503,282
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	公社債投信	0	0	0
	上場投資信託	0	0	0
	投資信託(公募)	187,715	187,639	△77
	投資信託(私募)	0	0	0
	金銭信託	0	0	0
	計	187,715	187,639	△77
合計		8,673,219	9,176,424	503,205

②借入金の状況

該当なし。

③寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
教育・研究協力資金	-	28,408千円	312件
奨学寄付金	-	39,306千円	42件
その他の特別寄付金	-	8,258千円	9件
創立125周年記念事業資金	-	136,796千円	41件
附属姫路高校創立50周年記念事業資金	-	16,261千円	174件
附属牛久高校創立50周年記念事業資金	-	19,127千円	346件
その他の一般寄付金	-	6,304千円	3件
現物寄付金	-	38,663千円	1,147件
合計		293,123千円	2,074件

3. 財務の概要

(4) その他

④補助金の状況

(単位:千円)

補助金の種類	補助金額
私立大学等経常費補助金	2,299,890
一般補助	1,883,121
特別補助	416,769
成長力強化に貢献する質の高い教育	551
社会人の組織的な受入れへの支援	53,113
大学等の国際交流の基盤整備への支援	42,987
大学院等の機能の高度化への支援	215,328
授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	81,790
私立大学等改革総合支援事業	23,000
国際化拠点整備事業費補助金(グローバル人材育成推進事業)	95,397
私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究設備整備費等補助金	378,286
私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金	27,170
先導的創造科学技術開発開発費補助金	25,000
その他の補助金	16,272
地方公共団体等からの補助金	1,241,610
学術研究振興資金からの補助金	500
合計	4,084,125

⑤関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

関連当事者との取引の内容は、次のとおりです。

属性	役員、法人等の名称	住所	資本金または出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有の割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員兼任等	事業上の関係				
理事が代表取締役社長を務めている会社	(株)データビジネスサプライ	東京都渋谷区	1億円	物流・アウトソーシング事業、印刷・サブライ事業、システムソリューション事業	-	-	各種印刷物の作成等	印刷物作成費等の支払	6,916,309円	印刷製本費等	0円

イ) 出資会社

会社等の名称	事業内容	資本金等	出資割合	取引の内容	保証債務等
株式会社キャンパスサービス	建物の警備・清掃・保守・管理	10,000千円	100%	清掃・警備・設備保守業務の委託 年間 1,346,794千円	債務保証なし

4. データ集

(1) 入学試験の概要

一般入試 学部（第1部） (単位:人)

学部・学科(専攻)	志願者数	受験者数	合格者数
文学部			
哲学科	861	812	250
東洋思想文化学科	588	563	282
日本文学文化学科	2,005	1,923	594
英米文学科	1,466	1,403	425
英語コミュニケーション学科	1,266	1,205	303
史学科	1,652	1,578	426
教育学科	1,697	1,637	392
(人間発達専攻)	(593)	(570)	(203)
(初等教育専攻)	(1,104)	(1,067)	(189)
計	9,535	9,121	2,672
経済学部			
経済学科	4,036	3,894	1,016
国際経済学科	1,414	1,372	515
総合政策学科	1,811	1,756	485
計	7,261	7,022	2,016
経営学部			
経営学科	5,005	4,883	1,128
マーケティング学科	1,816	1,757	376
会計ファイナンス学科	1,363	1,321	376
計	8,184	7,961	1,880
法学部			
法律学科	3,196	3,071	1,020
企業法学科	1,731	1,680	644
計	4,927	4,751	1,664
社会学部			
社会学科	1,588	1,527	502
社会文化システム学科	1,169	1,114	328
メディアコミュニケーション学科	1,882	1,821	416
社会心理学科	1,414	1,372	354
社会福祉学科	1,095	1,047	310
計	7,148	6,881	1,910
理工学部			
機械工学科	1,678	1,636	615
生体医工学科	568	546	286
電気電子情報工学科	1,202	1,174	447
応用化学科	1,452	1,405	477
都市環境デザイン学科	873	846	354
建築学科	1,313	1,270	425
計	7,086	6,877	2,604
国際地域学部			
国際地域学科(国際地域専攻)	2,877	2,811	722
国際観光学科	3,952	3,875	648
計	6,829	6,686	1,370
生命科学部			
生命科学科	1,139	1,100	432
応用生物科学科	935	912	379
計	2,074	2,012	811
ライフデザイン学部			
生活支援学科	1,373	1,315	502
(生活支援学専攻)	(507)	(488)	(239)
(子ども支援学専攻)	(866)	(827)	(263)
健康スポーツ学科	2,121	2,067	431
人間環境デザイン学科	762	724	354
計	4,256	4,106	1,287
総合情報学部			
総合情報学科	1,892	1,831	733
食環境科学部			
食環境科学科	876	847	330
(フードサイエンス専攻)	(503)	(486)	(188)
(スポーツ・食品機能専攻)	(373)	(361)	(142)
健康栄養学科	612	573	145
計	1,488	1,420	475
合計	60,680	58,668	17,422

専門職大学院 (単位:人)

研究科名	志願者数	受験者数	合格者数
法務研究科	26	24	12

附属高等学校等 (単位:人)

学校名等	志願者数	受験者数	合格者数
附属姫路高等学校	3,185	3,173	3,161
附属姫路中学校	102	97	86
附属牛久高等学校	2,066	2,052	1,648
京北高等学校	311	304	290
京北中学校	108	105	100
京北幼稚園	58	54	38
合計	5,830	5,785	5,323

一般入試 学部（第2部・イブニングコース） (単位:人)

学部・学科(専攻)	志願者数	受験者数	合格者数
文学部			
東洋思想文化学科	104	98	71
日本文学文化学科	124	114	86
教育学科	112	106	68
計	340	318	225
経済学部			
経済学科	304	284	145
経営学部			
経営学科	153	132	83
法学部			
法律学科	287	266	141
社会学部			
社会学科	211	200	133
社会福祉学科	137	130	108
計	348	330	241
国際地域学部			
国際地域学科(地域総合専攻)	245	237	147
合計	1,677	1,567	982
第1部・第2部 合計	62,357	60,235	18,404

4. データ集

(1) 入学試験の概要

大学院 4月入学のための入学試験

博士前期・修士課程

(単位:人)

研究科・専攻		志願者数	受験者数	合格者数
文学研究科	哲学専攻	6	6	6
	インド哲学仏教学専攻	5	5	4
	日本文学文化専攻	12	11	7
	中国哲学専攻	1	1	1
	英文学専攻	1	1	1
	史学専攻	8	8	8
	教育学専攻	8	8	6
	英語コミュニケーション専攻	5	4	4
計	46	44	37	
社会学研究科	社会学専攻	15	15	8
	社会心理学専攻	6	6	5
	計	21	21	13
法学研究科	私法学専攻	6	6	6
	公法学専攻	19	17	17
	計	25	23	23
経営学研究科	経営学専攻	15	14	9
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	29	27	22
	マーケティング専攻	20	18	11
	計	64	59	42
理工学研究科	機能システム専攻	13	13	10
	生体医工学専攻	22	22	22
	電気電子情報専攻	13	13	11
	応用化学専攻	11	10	10
	都市環境デザイン専攻	6	6	6
	建築学専攻	11	11	11
	計	76	75	70
経済学研究科	経済学専攻	10	10	8
	公民連携専攻	10	10	10
	計	20	20	18
国際地域学研究科	国際地域学専攻	5	5	5
	国際観光学専攻	19	19	8
	計	24	24	13
生命科学研究科	生命科学専攻	25	24	21
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	8	8	7
	福祉社会システム専攻	3	3	3
	ヒューマンデザイン専攻	11	11	11
	人間環境デザイン専攻	9	9	9
	計	31	31	30
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	13	13	13
合計		345	334	280

大学院 秋入学のための入学試験

博士前期・修士課程

(単位:人)

研究科・専攻		志願者数	受験者数	合格者数
経営学研究科	ビジネス・会計ファイナンス専攻	0	0	0
工学研究科	機能システム専攻	2	2	1
	バイオ・応用化学専攻	0	0	0
	環境・デザイン専攻	0	0	0
	情報システム専攻	3	3	3
	計	5	5	4
経済学研究科	公民連携専攻	2	2	2
国際地域学研究科	国際地域学専攻	4	3	3
	国際観光学専攻	2	2	2
	計	6	5	5
生命科学研究科	生命科学専攻	1	1	0
福祉社会デザイン研究科	福祉社会システム専攻	0	0	0
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	2	2	2
合計		16	15	13

博士後期課程

(単位:人)

研究科・専攻		志願者数	受験者数	合格者数
文学研究科	哲学専攻	6	6	6
	インド哲学仏教学専攻	3	3	3
	日本文学文化専攻	3	3	3
	中国哲学専攻	0	0	0
	英文学専攻	0	0	0
	史学専攻	1	1	1
	教育学専攻	1	1	1
	英語コミュニケーション専攻	0	0	0
計	14	14	14	
社会学研究科	社会学専攻	6	6	5
	社会心理学専攻	1	1	1
	計	7	7	6
法学研究科	私法学専攻	0	0	0
	公法学専攻	1	1	1
	計	1	1	1
経営学研究科	経営学専攻	0	0	0
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	2	2	1
	マーケティング専攻	1	1	1
	計	3	3	2
理工学研究科	機能システム専攻	0	0	0
	生体医工学専攻	1	1	1
	電気電子情報専攻	1	1	1
	応用化学専攻	0	0	0
	建築・都市デザイン専攻	2	2	1
	計	4	4	3
	経済学研究科	経済学専攻	3	3
国際地域学研究科	国際地域学専攻	4	4	4
	国際観光学専攻	4	4	3
	計	8	8	7
生命科学研究科	生命科学専攻	0	0	0
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	7	7	7
	ヒューマンデザイン専攻	3	3	3
	人間環境デザイン専攻	0	0	0
	計	10	10	10
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	3	3	3
合計		53	53	48

博士後期課程

(単位:人)

研究科・専攻		志願者数	受験者数	合格者数
経営学研究科	ビジネス・会計ファイナンス専攻	0	0	0
工学研究科	機能システム専攻	2	2	2
	バイオ・応用化学専攻	0	0	0
	環境・デザイン専攻	1	1	1
	情報システム専攻	2	2	2
	計	5	5	5
国際地域学研究科	国際地域学専攻	2	2	2
	国際観光学専攻	1	1	0
	計	3	3	2
生命科学研究科	生命科学専攻	1	1	1
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	2	2	2
合計		11	11	10

4. データ集

(2) 就職の概要

平成26(2014)年3月卒業生 学部別業種別進路状況

(単位:人)

学部	農・林・漁・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究	飲食店・宿泊業	生活関連サービス業・娯楽業	医療・福祉	教育・学習支援業	複合サービス事業	サービス業	公務員	その他	計
文学部第1部	0	21	41	0	46	13	116	44	16	18	27	28	24	87	11	14	24	23	553
経済学部第1部	1	23	38	5	61	22	101	78	23	13	8	8	12	8	3	16	21	32	473
経営学部第1部	0	30	46	2	55	17	148	94	27	30	19	13	15	14	9	10	18	22	569
法学部第1部	0	11	32	0	28	7	84	49	17	9	10	5	15	9	3	18	59	19	375
社会学部第1部	0	14	41	0	70	11	97	65	25	20	7	17	60	6	13	11	15	30	502
理工学部	0	128	97	4	49	13	58	8	33	28	7	3	10	11	1	6	28	34	518
工学部	0	1	5	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	11
国際地域学部	0	11	27	0	16	21	89	25	17	7	29	42	13	5	2	12	5	19	340
生命科学部	3	6	84	1	7	3	61	12	2	5	12	6	14	15	2	3	10	8	254
ライフデザイン学部	1	24	24	1	13	7	79	19	13	12	11	27	109	50	1	5	27	19	442
総合情報学部	0	7	16	0	66	2	31	14	5	8	5	7	2	3	4	2	5	16	193
文学部第2部	1	0	3	0	9	1	19	5	3	3	6	2	2	5	0	1	2	3	65
経済学部第2部	0	3	6	1	7	5	14	12	2	0	6	3	3	1	0	4	5	3	75
経営学部第2部	0	0	7	0	13	4	11	1	3	4	5	4	2	0	0	2	1	3	60
法学部第2部	1	7	2	0	2	4	8	2	1	1	2	2	4	3	3	2	5	2	51
社会学部第2部	0	5	7	0	9	2	28	5	4	3	2	6	13	2	0	1	4	4	95
国際地域学部イブニングコース	0	1	6	0	3	0	16	1	2	2	1	2	1	1	0	2	0	2	40
計	7	292	482	14	456	132	960	434	194	163	158	175	299	221	52	109	229	239	4,616

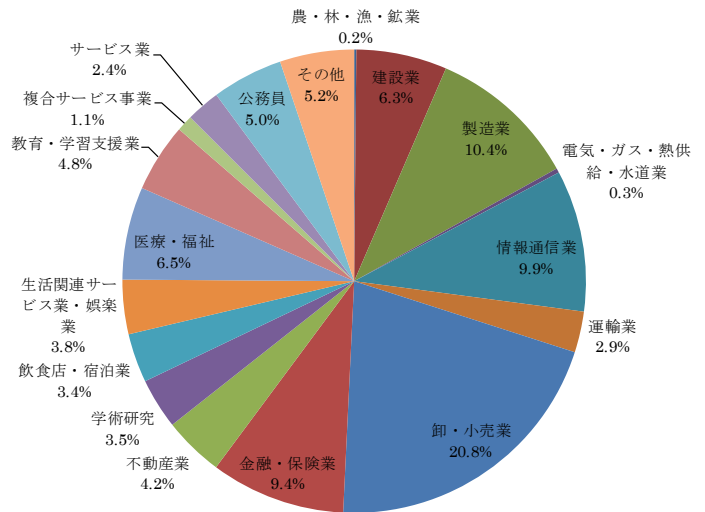
平成26(2014)年3月学部1部・2部卒業生

上位就職先一覧

(単位:人)

順位	企業名等	男	女	総計
1	警視庁	22	5	27
2	埼玉県教育委員会	9	16	25
3	日本郵便株式会社(日本郵政グループ)	8	15	23
4	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)	7	14	21
5	株式会社京葉銀行	6	10	16
6	埼玉県警察本部	14	0	14
7	株式会社ベネッセスタイルケア	3	9	12
	株式会社千葉興業銀行	8	4	12
9	株式会社エイチ・アイ・エス	0	11	11
	上尾中央医科グループ	9	2	11
	東京都教育委員会	5	6	11
12	SMBCFренд証券株式会社	6	4	10
	株式会社JTB首都圏	4	6	10
	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	9	1	10
	株式会社千葉銀行	3	7	10
	千葉県警察本部	7	3	10
	県信用金庫	5	5	10
	防衛省 陸上自衛隊	9	1	10
19	株式会社常陽銀行	3	6	9
	千葉県教育委員会	6	3	9
	東京消防庁	9	0	9
22	ケアサポート株式会社	2	6	8
	花王カスタマーマーケティング株式会社	2	6	8
	株式会社ベルク	4	4	8
	株式会社レオハレス21	4	4	8
	株式会社三井住友銀行	0	8	8
	第一生命保険株式会社	0	8	8
	東京地下鉄株式会社	8	0	8
29	IMS(イムス)グループ	0	7	7
	株式会社三菱東京UFJ銀行	0	7	7
	株式会社筑波銀行	4	3	7
	株式会社島忠	1	6	7
	住友不動産販売株式会社	7	0	7
	総合警備保障株式会社	5	2	7
35	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1	5	6
	スターツコーポレーション株式会社	3	3	6
	岡三証券株式会社	6	0	6
	株式会社LIXIL	6	0	6
	株式会社ジャパンビレッジホールディングス	5	1	6
	株式会社バル	0	6	6
	株式会社マイナビ	4	2	6
	株式会社みずほフィナンシャルグループ	0	6	6
	株式会社東和銀行	4	2	6
	株式会社武蔵野銀行	5	1	6
	大和ハウス工業株式会社	5	1	6
	日本年金機構	3	3	6

平成26(2014)年3月 学部1部・2部卒業生 業種別進路状況



4. データ集

(3) 外部資金、助成金等の概要

平成25年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
研究拠点を形成する研究

主体となる研究組織名	研究代表者	事業名(研究プロジェクト名)	期間	研究費(千円)
福祉社会開発研究センター (大学院福祉社会デザイン研究科) Center for Development of Welfare Society	森田 明美 (大学院福祉社会デザイン研究科・社会学部教授)	高齢者、障害者、子どもの社会的孤立に対応する見守り支援・自立支援に関する総合的研究	平成25年度 ～平成29年度	12,600
21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター (大学院社会学研究科) 21st Century Human Interaction Research Center	安藤 清志 (大学院社会学研究科・社会学部教授)	社会的逆境後の精神的回復・成長をもたらす個人的および社会的資源	平成25年度 ～平成29年度	20,729
計算力学研究センター (大学院工学研究科) Center for Computational Mechanics Research	田村 善昭 (大学院工学研究科・総合情報学部教授)	大規模高精度流体・構造連成解析手法の開発と詳細実験による精度・妥当性	平成24年度 ～平成28年度	40,000
国際哲学研究センター (大学院文学研究科) International Research Center for Philosophy	村上 勝三 (大学院文学研究科・文学部教授)	国際哲学研究センターの形成——多元化した地球社会における新たな哲学の構築	平成23年度 ～平成27年度	38,000
「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ Transdisciplinary Initiative for Eco-Philosophy	山田 利明 (大学院文学研究科・文学部教授)	エコ・フィロソフィの確立と教育の研究	平成23年度 ～平成27年度	13,490
バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター Bio-Nano Electronics Research Centre	前川 透 (バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター所長)	バイオ・ナノハイブリッド構造体を基礎とした革新的環境・バイオ・医療デバイスの開発	平成23年度 ～平成29年度	200,000
国際共生社会研究センター (大学院国際地域学研究科) Center for Sustainable Development Studies	北脇 秀敏 (大学院国際地域学研究科・国際地域学部教授)	アジア開発途上地域における内発的発展支援手法の開発	平成22年度 ～平成26年度	25,440
生体医学研究センター (大学院工学研究科) Center for Biomedical Engineering Research	寺田 信幸 (大学院工学研究科・理工学部教授)	脳科学を基盤としたストレスの可視化によるヘルスサポートシステムの開発	平成22年度 ～平成26年度	30,000
経営力創成研究センター (大学院経営学研究科) Research Center for Creative Management	小椋 康宏 (大学院経営学研究科・経営学部教授)	日本発経営力の創成と「新・日本流」経営者・管理者の研究	平成21年度 ～平成25年度	9,850

平成25年度 私立大学研究施設装置設備補助金一覧

種別	施設・装置・設備名	事業経費(円)	交付決定額(円)
研究装置	高性能大面積ナノパターンジェネレーター	81,747,000	40,873,000
	高精度電子線描画装置	128,400,000	64,200,000
	超伝導量子干渉素子・磁気特性評価システム	87,000,000	43,500,000
	多目的X線回折分析システム	53,117,400	26,558,000
研究設備	生体分子分取質量分析システム	97,335,000	64,890,000
	バイオ・ナノハイブリッド質量分析システム	49,980,000	33,320,000
	タンパク質単離分取・分析システム	35,632,275	23,754,000
	顕微赤外分光/顕微ラマン複合評価システム	39,900,000	26,600,000
	2次元電気泳動解析システム	14,608,440	9,738,000
	SEM装着ブローバー用ステージ制御システム	7,999,320	5,332,000
	スペクトルイメージング共焦点レーザー顕微鏡	39,800,000	26,533,000
	太陽電池測定システム	5,000,000	3,333,000
GPUクラスタシステム	14,482,965	9,655,000	
合計		655,002,400	378,286,000

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
件数	11	11	9	10	9
金額(千円)	108,803	110,296	127,985	136,210	107,365

補助額は研究費分のみ。他にPD、RA雇用の補助あり。

受託研究

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
件数	42	46	43	43	43
金額(千円)	101,466	127,636	109,816	112,063	103,528

科学研究費助成事業

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
新規申請件数	213	176	178	144	161
新規採択件数	49	39	43	39	42
採択率	23.0%	22.2%	24.2%	27.1%	26.1%
採択件数 合計	121	142	147	148	158
採択金額 合計(千円)	186,374	203,509	228,299	254,860	276,350
(直接経費)	145,442	158,530	176,330	196,600	213,500
(間接経費)	40,932	44,979	51,969	58,260	62,850

新規採択件数は各年度第1回交付内定時データ。

採択金額には転入者分も含み、転出者分を除いている。

共同研究

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
件数	0	8	4	8	11
金額(千円)	0	2,810	2,950	4,170	11,741

奨学寄付金

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
件数	29	29	34	31	41
金額(千円)	22,560	27,080	28,920	19,294	40,005

発明

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
届出件数	19	12	13	27	19

特許出願

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
単独出願数	15	10	7	20	14
共同出願数	1	1	6	5	5
合計	16	11	13	25	19

4. データ集

(4) 国際交流の概要

協定校

No.	国	大学名	交換留学	協定校語学留学	語学セミナー	備考
1	アイルランド	ダブリンシティ大学	●	●	●	
2		リムリック大学	●			
3		ウィノナ州立大学	※1			
4		オレゴン州立大学	※1			
5	アメリカ	カリフォルニア州立大学モンレーベイ校	●			
6		テネシー大学ノックスビル校	●			
7		ポートランド州立大学		●	●	
8		ミズーリ大学セントルイス校	●			
9		ミシシッピ大学	●			
10		モンタナ大学	●	●		
11		リンゼイ・ウィルソン大学	●			
12		ルイス・クラーク州立大学	●			
13	イギリス	カーディフ大学	●			
14		セントラル・ランカシャー大学				
15		ブライトン大学	※2			
16	インド	ヨーク・セント・ジョン大学	●	●		
17		インド工科大学デリー校				
18		インド工科大学マドラス校				
19		ケララ大学				
20		マンガラン教育協会				
21	インドネシア	スラバヤ工科大学				
22	カズベキスタン	タシケント国立東洋学大学				
23	オーストラリア	サンシャインコースト大学	●			
24		シーキュー(CQ)大学	●		●	
25	オランダ	ロッテルダム大学	●			
26	カナダ	クワンテンボリテクニク大学	●			
27		サスカチュワン大学				
28		トンプソンリバーズ大学	●		●	
29		マニトバ大学	●		●	
30	韓国	円光大学校	●			
31		仁荷大学校	●			
32		成均館大学	●			
33		韓国外国語大学校	●			
34		韓南大学校	●			
35		金剛大学校	●			
36		建国大学校	●			
37		大邱大学校	●			
38		東国大学校	●			
39		スイス	ルツェルン大学	●		
40	スロベニア	リュブリャナ大学				
41	タイ	アジア工科大学院				
42		チェンマイ大学				
43	台湾	中国文化大学				
44		天主教輔仁大学	●			
45	中国	龍華科技大學				
46		華中科技大学				
47		吉林大学				
48		上海对外貿易学院				
49		大連外国語大学	●			
50		大連理工大學				
51		中国人民大学				
52		復旦大学				
53	ドイツ	マールブルク大学	●			
54	ニュージーランド	ユニテック工科大学				
55	フィリピン	カラガ州立大学 ※3				
56		サンホセリコルス大学				
57		セント・ジョセフ工科大学 ※3				
58		ファーザー・サトゥルニノ・コリオス大学 ※3				
59		フィリピン大学セブ校				
60		フィリピン大学デイマン校				
61	フランス	ストラスブール大学	●			
62		ナント大学	●			
63		ピエール・マリ・キエリー大学(パリ第6大学)				
64	ベトナム	ベトナム国家大学ホーチミン校				
65	マレーシア	マラヤ大学				
66		マレーシア国際イスラム大学				
67	ルーマニア	ティミショアラ工科大学				
68	アメリカ	ISEP	●			コンソーシアム
69	台湾	UMAP(アジア太平洋大学交流機構)	●			コンソーシアム
70	アメリカ	NCPPP(米国PPP協会)				その他
71		ULI、日本政策投資銀行				
72	ハンガリー	ハンガリー科学アカデミー原子核研究所				その他
73	フィリピン	ブトゥアン市 ※3				都市
74	韓国	平澤市				都市

(国名50音順)
 ※1 現在は、学生の派遣超過により、学生交換を中止している。
 ※2 学生交換は、パイオナノの博士課程または学際融合の大学院生に限る。
 ※3 フィリピンの3大学、ブトゥアン市、東洋大学との間の5者間協定。
 東洋大学は、現在23カ国(注)・67大学・2コンソーシアム・3機関・2都市と大学レベルの協定を結んでいる。
 (注) 台湾を1カ国と数えた場合

留学生数・留学者数

プログラム名	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
派遣留学生数					
交換留学(派遣)	27	45	55	50	56
認定留学	0	0	2	5	7
協定校語学留学(※1)	-	-	-	-	14
短期語学セミナー	87	100	126	166	140
合計	114	145	183	221	217

※1 平成25(2013)年度から開始したプログラム
 ※2 上表は、中途帰国者を含む

【受入留学者数】

プログラム名	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
交換留学(受入)	36	41	28	40	35

一般留学生(私費・国費)在籍者数

種別	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
私費	400	423	422	372	328
国費	12	16	13	11	11
合計	412	439	435	383	339

※ 平成25(2013)年5月1日現在の数

留学に関する奨学金受給者数

奨学金名	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
交換留學生奨学金	27	45	51	39	56
認定留學生奨学金	0	0	2	5	7
協定校語学留學生奨学金(※1)	-	-	-	-	-
海外留學促進奨学金(※2)	-	-	-	96	114
・ファーストステップ型	-	-	-	(63)	(56)
・チャレンジ型	-	-	-	(33)	(57)
・アクティブ型	-	-	-	(0)	(1)
・グローバルリーダー型	-	-	-	(0)	(0)
合計	27	45	53	140	177

交換留學生奨学金 所属学部・研究科の年間授業料相当額を給付
 認定留學生奨学金 1学年間の留學の場合:所属学部・研究科の年間授業料の半額相当額を給付
 1学期間の留學の場合:所属学部・研究科の年間授業料の4分の1相当額を給付
 協定校語学留學生奨学金 所属学部・研究科の年間授業料の4分の1相当額を給付
 ※1 平成26(2014)年度から開始する奨学金
 設定している語学能力検定試験のスコア基準に応じて定められた額を給付
 ※2 平成24(2012)年度から開始した奨学金

4. データ集

(5) 図書の概要

蔵書数

平成26(2014)年3月31日現在

		白山図書館	川越図書館	朝霞図書館	板倉図書館	全館合計
図書	和書	691,624	135,459	231,738	57,536	1,116,357
	洋書	250,202	59,852	21,073	9,376	340,503
	計	941,826	195,311	252,811	66,912	1,456,860
雑誌	和雑誌	8,626	1,207	2,038	358	12,229
	洋雑誌	3,404	1,474	481	194	5,553
	計	12,030	2,681	2,519	552	17,782
その他	データベース	47				47
	電子ジャーナル	25,278				25,278

※ 単位について、図書は冊数、雑誌・データベース・電子ジャーナルはタイトル数

平成25年度図書受入数

(単位:冊数)

		白山図書館	川越図書館	朝霞図書館	板倉図書館	全館合計
和書	購入(複製受入含)	17,479	3,880	5,768	1,905	29,032
	寄贈	690	21	125	67	903
	その他	580	18	145	3	746
	計	18,749	3,919	6,038	1,975	30,681
洋書	購入(複製受入含)	4,175	525	101	295	5,096
	寄贈	33	7	29	0	69
	その他	151	1	4	0	156
	計	4,359	533	134	295	5,321
合計		23,108	4,452	6,172	2,270	36,002

平成25年度雑誌受入数

(単位:タイトル数)

		白山図書館	川越図書館	朝霞図書館	板倉図書館	全館合計
和雑誌	購入	718	268	149	127	1,262
	寄贈	1,193	70	40	36	1,339
	その他	67	16	16	6	105
	計	1,978	354	205	169	2,706
洋雑誌	購入	397	217	46	26	686
	寄贈	15	16	0	1	32
	その他	1	10	0	0	11
	計	413	243	46	27	729
年報・白書		356	61	108	24	549
合計		2,747	658	359	220	3,984



東洋大学は平成 19 年度に(財)大学基準協会による大学評価（認証評価）を受け、「大学基準に適合している」と認定を受けました。
この認定マークは、大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることのシンボルとなるものです。

平成 25 年度東洋大学事業報告書 平成 26 年 5 月 31 日 発行
学校法人東洋大学 〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20
URL <http://www.toyo.ac.jp/>